

SRC 自主調査の調査結果について

【第2回】新型コロナウイルス感染症に関する国民アンケート

第1回調査から1か月後の継続調査 3/25東京都外出等自粛要請の週末（3/28～29）動向を中心として

■調査目的

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界的に拡大する中、これまでそして現在の国民の意識や行動を明らかにするために、株式会社サーベイリサーチセンターでは、全国47都道府県にお住まいの20歳以上の男女（インターネットリサーチモニター）に対する自主調査を実施しました。

この調査は、2020年3月11日に公表した第1回調査（<https://www.surece.co.jp/research/3282/>）に続く継続調査として、2020年4月3日（金）～4月6日（月）に実施したものです。

■実施体制

- 調査主体 株式会社サーベイリサーチセンター <https://www.surece.co.jp/contact/>
SRC 情報総研
- 監修・協力 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 准教授 関谷 直也
naoya@iii.u-tokyo.ac.jp
東京大学大学院学際情報学府 博士後期課程 安本 真也

■本紙のポイント

〔調査の背景〕

- この調査は、3月25日に東京都知事が「週末の外出自粛を強く要請」した週末（3/28～29）の動向を中心として、第1回調査から約1か月後の状況を把握するために翌週末に実施した

〔不安の推移〕

- 日本でウイルスが広がる不安は、早い段階から高い比率かつ漸増してきた。自分自身への感染の不安や自分自身の感染による重篤化や死の不安は、3月下旬の都知事会見（自粛要請）や志村けんさんの死去などで大きく上昇している
- 総合的な、感染不安度は第1回調査（3/7～3/9）に比べ大きく増加し「とても不安を感じている」との回答は2倍近くに伸びている。また、同居者に乳幼児、高齢者、基礎疾患がある人がいる場合の不安度も大きく高まっている

〔自粛要請の受け止め〕

- 自粛要請については、感染症予防や医療崩壊を防ぐ上で、やむを得ないという考え方への肯定層が9割を超えている
- 3/25の都知事会見を踏まえた行動意識では、「社会の深刻な状況を感じて、外出を控えたいと思った」「自身への危険の高まりを感じて、外出を控えたいと思った」との回答が過半数以上となっており、東京都民の回答比率は、全国値を1割程度上回っている
- 都知事会見から最初の週末に【まったく外出しなかった】人は、土曜日が32.8%、日曜日が38.9%で、金曜日・月曜日に比べ7～17ポイント程度、金曜日・月曜日より高くなっている。東京都民では、金曜日・月曜日はほぼ全国と同様だが、土曜日は全国を8ポイント上回り、日曜日は14ポイント上回っている

〔感染防止行動・拡大防止行動〕

- 第1回調査に比べ「屋内の換気」「手すりやドアノブなどに触れた指先で目・鼻・口を触らない」「定期的な体温の測定」などでやや実施率が高くなっている。さらに拡大防止などの行動として「人が密集するような場所へ行くことを避ける」（80.6%）が最も多く、「食事会や飲み会などに行かない」「必要以上に買いだめしたり、多くの店で買い漁ったりしない」が半数前後となっている
- こうした行動を実行し続けることについて、できる+まあできると回答した人は8割以上となった

■実施概要（第2回調査）

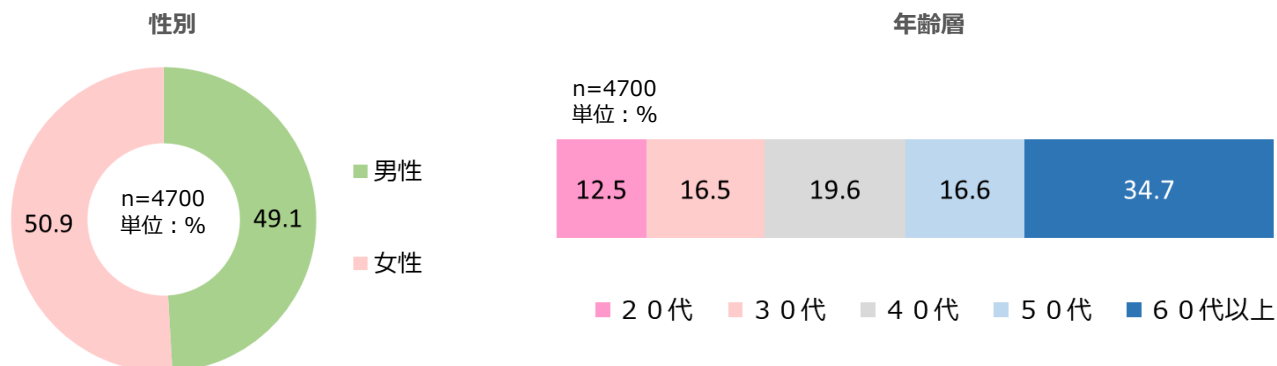
- 調査地域 全国
- 調査方法 インターネット調査（インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査）
- 調査対象 20歳以上男女モニター
- 有効回答 ①全国47都道府県 各100サンプル割付回収（全4700サンプル回収）
※上記は、都道府県別集計を各地で用いて頂けるよう、考慮した調査設計である
※全体（全国）の集計は、都道府県人口・性年代別人口を考慮したウエイトバック（補正）集計を行っている
②併せて、大都市集計として東京都・大阪府・愛知県の3都市は、補完サンプルを上乗せした集計を別途行った
- 調査内容 基本属性／認知状況／日本に広がる不安／自身が感染する不安／不安の要因／生活への影響／同居者に関する不安／感染防止に気をつけていること／利用や参加を控えたものごと／情報源／うわさ／買物行動の変化／感染症対策への評価／テレビの情報提供への評価 など
- 調査期間 2020年（令和2年）4月3日（金）配信開始～4月6日（月）調査終了
- 資料の見方 nと表記がある数値は、構成比（%）算出の基数（調査数）である
構成比（%）は、小数点第二位を四捨五入しており、合計が100.0にならない場合がある
M.A.と表記がある設問は、多肢式（複数回答可）のため、合計は100%以上となる

■参考（第1回調査実施概要）

- 調査地域 全国
- 調査方法 インターネット調査（インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査）
- 調査対象 20歳以上男女モニター
- 有効回答 全国47都道府県 各100サンプル割付回収（全4700サンプル回収）
- 調査期間 2020年（令和2年）3月6日（金）配信開始～3月9日（月）調査終了

■回答者のプロフィール

4/3～4/6調査（第2回調査）



■不安の推移（１）

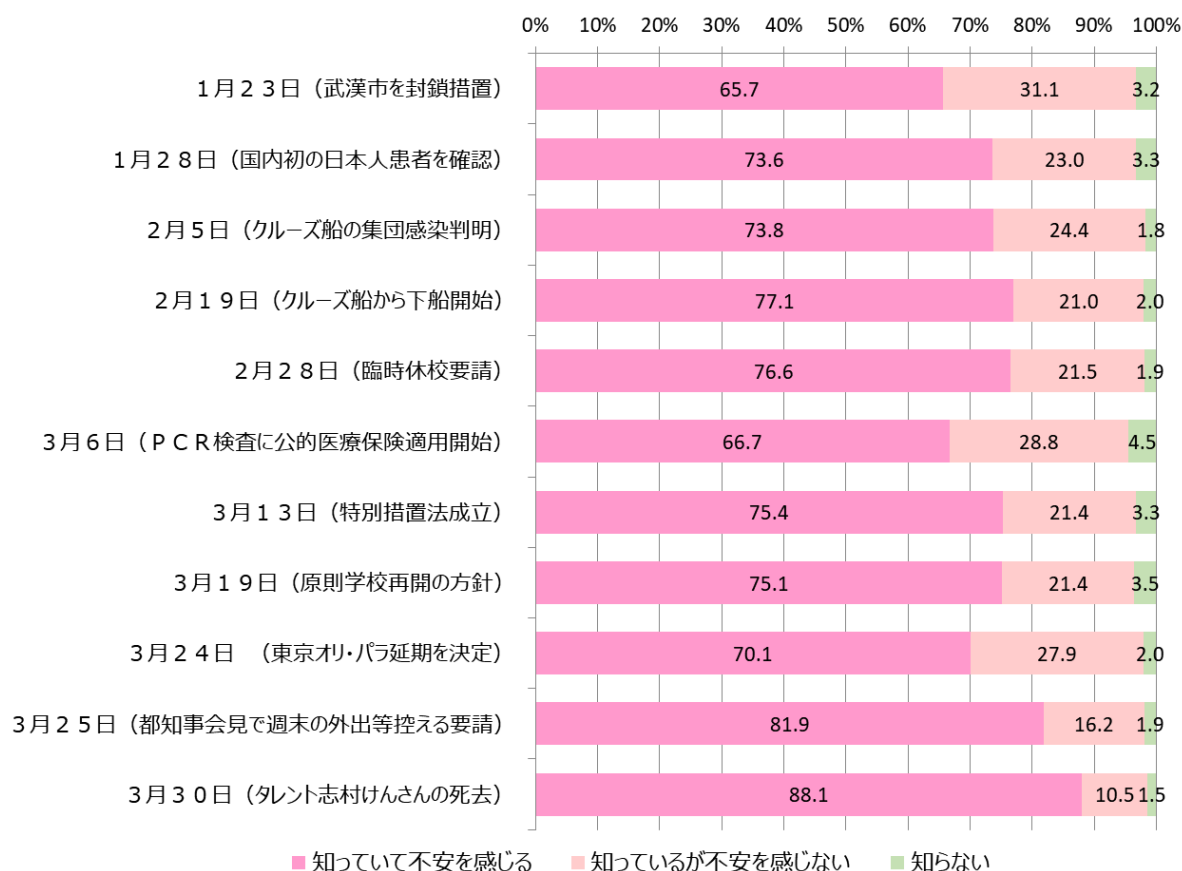
- コロナウイルス感染症の関連事項については、全般的に非常に高く認知されている
- その上で不安度の高さは、調査時に直近の事項であった都知事会見（3/25）で80%を超え、志村けんさんの死去（3/30）では9割近い回答比率となっている

これまでの出来事や呼びかけなどの認知

Q あなたは、これまでのコロナウイルス感染症に関する出来事や呼びかけなどについて、下記のことを知っていますか（それぞれ1つずつ）

4/3~4/6調査（第2回調査）

n=4700 単位：％



■不安の推移（２）

- コロナウイルス感染症の関連事項について、①日本でウイルスが広がる不安、②自分自身がウイルスに感染する不安、③自分自身の感染で重篤化や死に至る不安の3点についてたずねた
- 日本国内にウイルスが広がる不安は、国内初の日本人患者確認（1/28）に大きく高まり、以後漸増しつつ、都知事会見（3/25）以降90%台に達している
- 自分自身がウイルスに感染する不安は、当初国内に広がる不安に比べ半分に満たない回答比率だったが、クルーズ船からの下船開始（2/19）から不安度の高まりが強くなり、都知事会見（3/25）で76.6%に上がっている
- 自分自身が感染で重篤化したり死に至る不安は、3月下旬まで2割台～4割程度まで漸増傾向だったが、都知事会見（3/25）の時点で半数を超え、志村けんさんの死去（3/30）の時点では約7割に達する状況になっている

※質問は、調査時点で遡及的に1つ1つについて不安を感じたか否かをたずねた結果。数値は、不安を感じた回答比率である

※質問形式上、時系列的に遠い時点ほど数値が低くなる傾向はあり得るが、数値の高まりが強い時点は、第1回調査とおおむね整合している

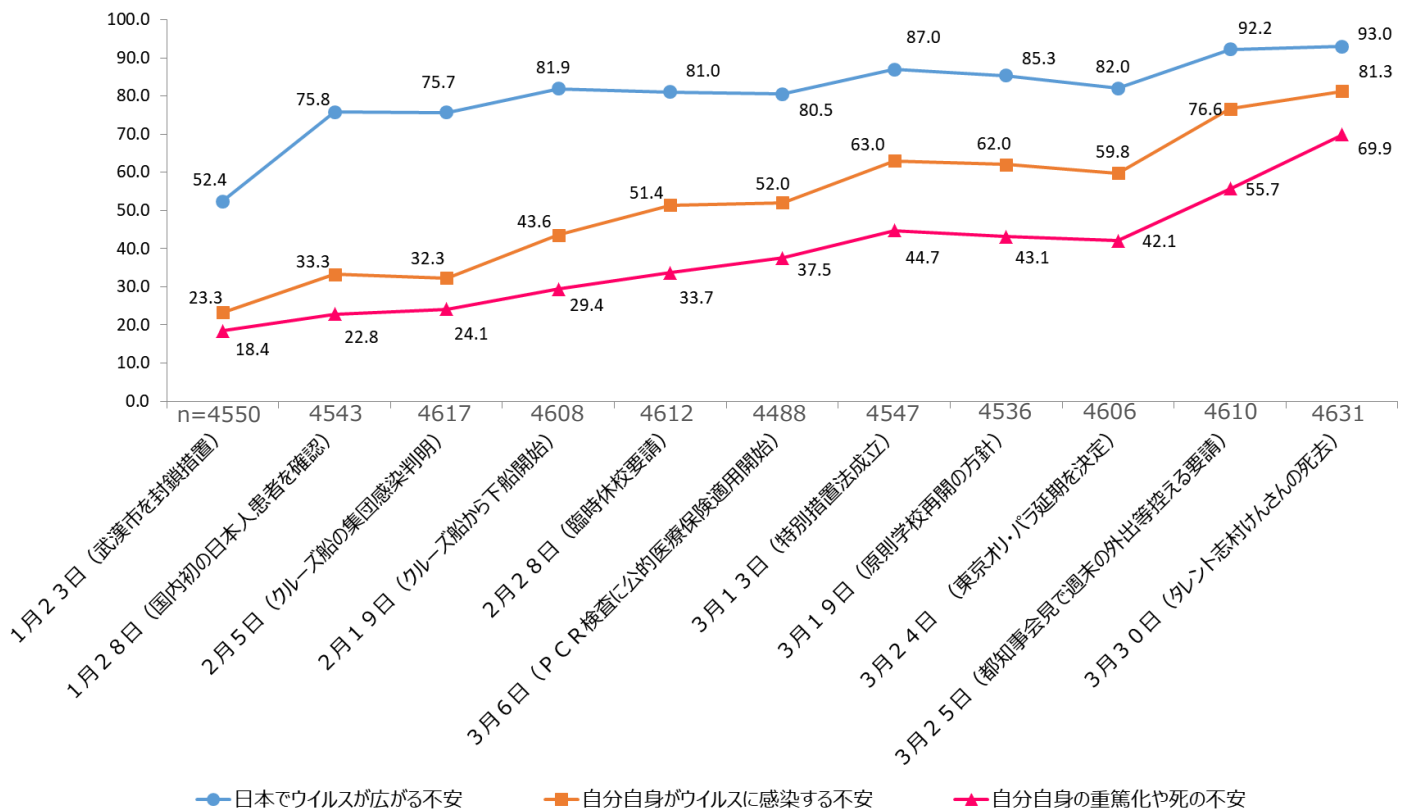
不安の推移

Q 新型コロナウイルスの存在が明らかになってから現在に至るまで、日本でウイルスが広がるかどうかについて、不安を感じましたか。以下についてお答えください（それぞれ1つずつ）

Q 新型コロナウイルスの存在が明らかになってから現在に至るまで、自分自身が感染する不安を感じましたか。以下についてお答えください（それぞれ1つずつ）

Q 新型コロナウイルスの存在が明らかになってから現在に至るまで、自分自身が感染で重篤化したり死ぬのではないかと、不安を感じましたか。以下についてお答えください（それぞれ1つずつ）

4/3～4/6調査（第2回調査）



■総合的な不安度

- 自身の感染に対する総合的な不安度は、とても不安を感じる（45.1%）、やや不安を感じる（39.0%）を合わせて84.1%に達し、第1回調査と比べ「とても不安を感じている」との回答が2倍近い伸びとなっている
- あまり、あるいはまったく不安を感じないと回答した人に、その理由をたずねたところ、「重篤な状態になったり、死に至る確率が低そうだから」「ウイルスに対して、気をつけるべき注意点がわかってきたから」が上位2項目となっている

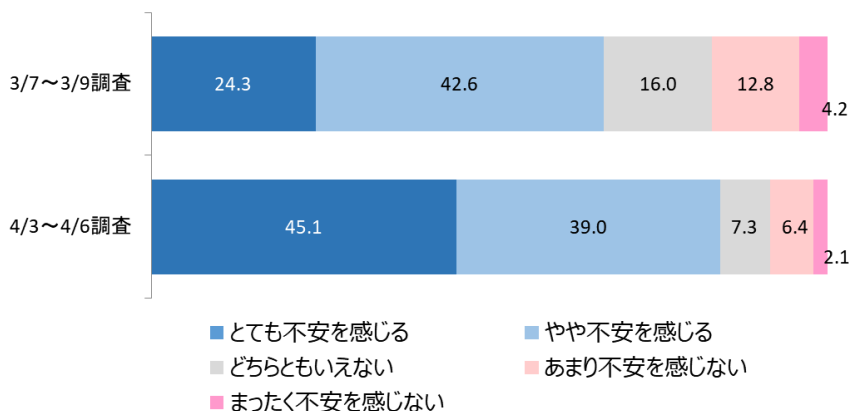
総合的な不安度

Q あなたは、自分自身が感染することについて、どの程度不安を感じますか（回答は1つだけ）

3/7~3/9調査（第1回調査）

4/3~4/6調査（第2回調査）

共にn=4700 単位：%

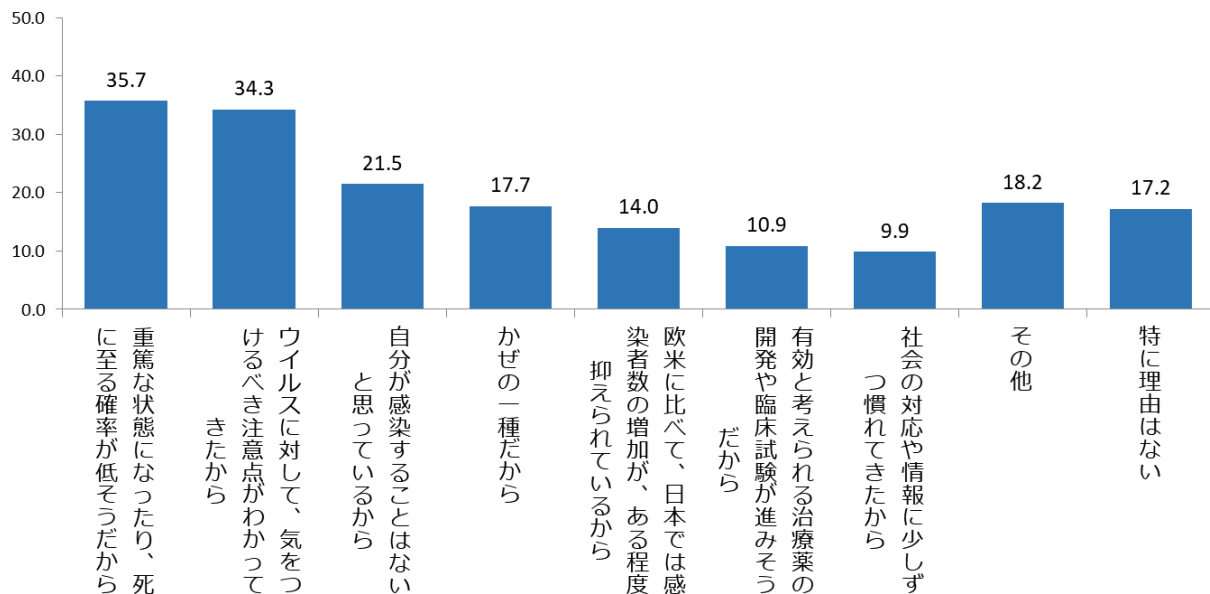


不安を感じない理由

Q あなたが、あまり、あるいはまったく不安を感じない理由はなんですか(あてはまるものすべて)

4/3~4/6調査（第2回調査）

n=400 単位：%

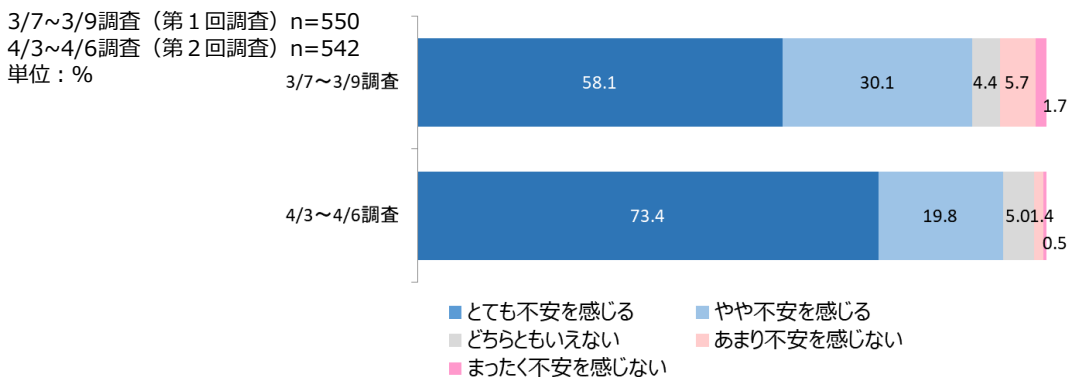


■同居者に関する不安

- 住まいに①乳幼児、②高齢者、③基礎疾患がある人がいる回答者に対して、それぞれ感染不安をたずねたところ、「とても不安がある」が【乳幼児】73.4%、【高齢者】51.7%、【基礎疾患患者】64.2%で、それぞれ第1回調査と比べ回答比率が高まっている（【乳幼児】15ポイント↑、【高齢者】22ポイント↑、【基礎疾患患者】23ポイント↑）

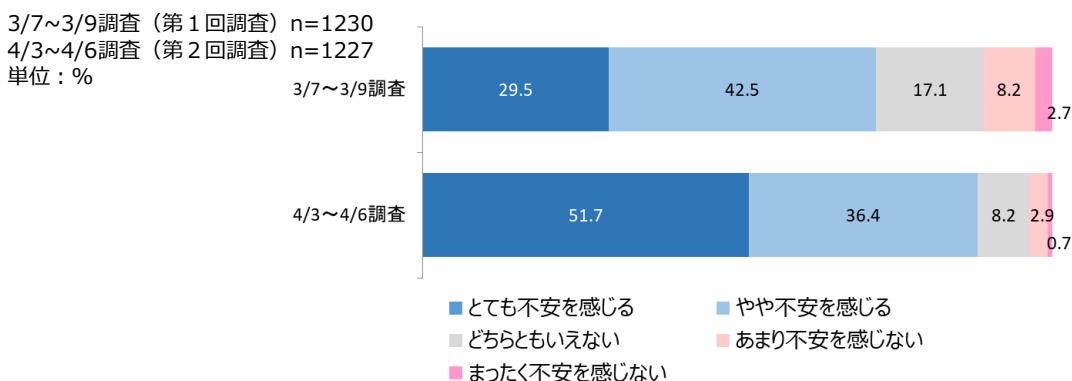
同居者（乳幼児）に関する不安

Q あなたは、同居されている乳幼児が感染するか、不安はありますか（回答は1つだけ）



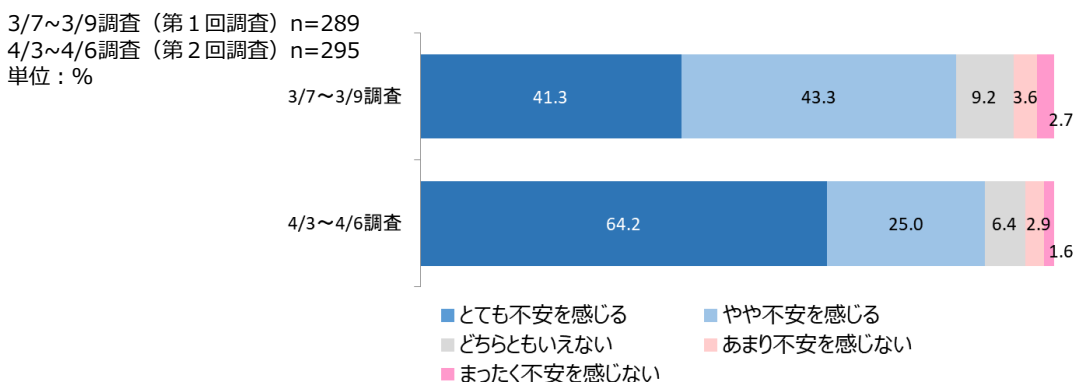
同居者（高齢者）に関する不安

Q あなたは、同居されている高齢者が感染するか、不安はありますか（回答は1つだけ）



同居者（基礎疾患がある人）に関する不安

Q あなたは、同居されている基礎疾患がある方が感染するか、不安はありますか（回答は1つだけ）



■心身の状況

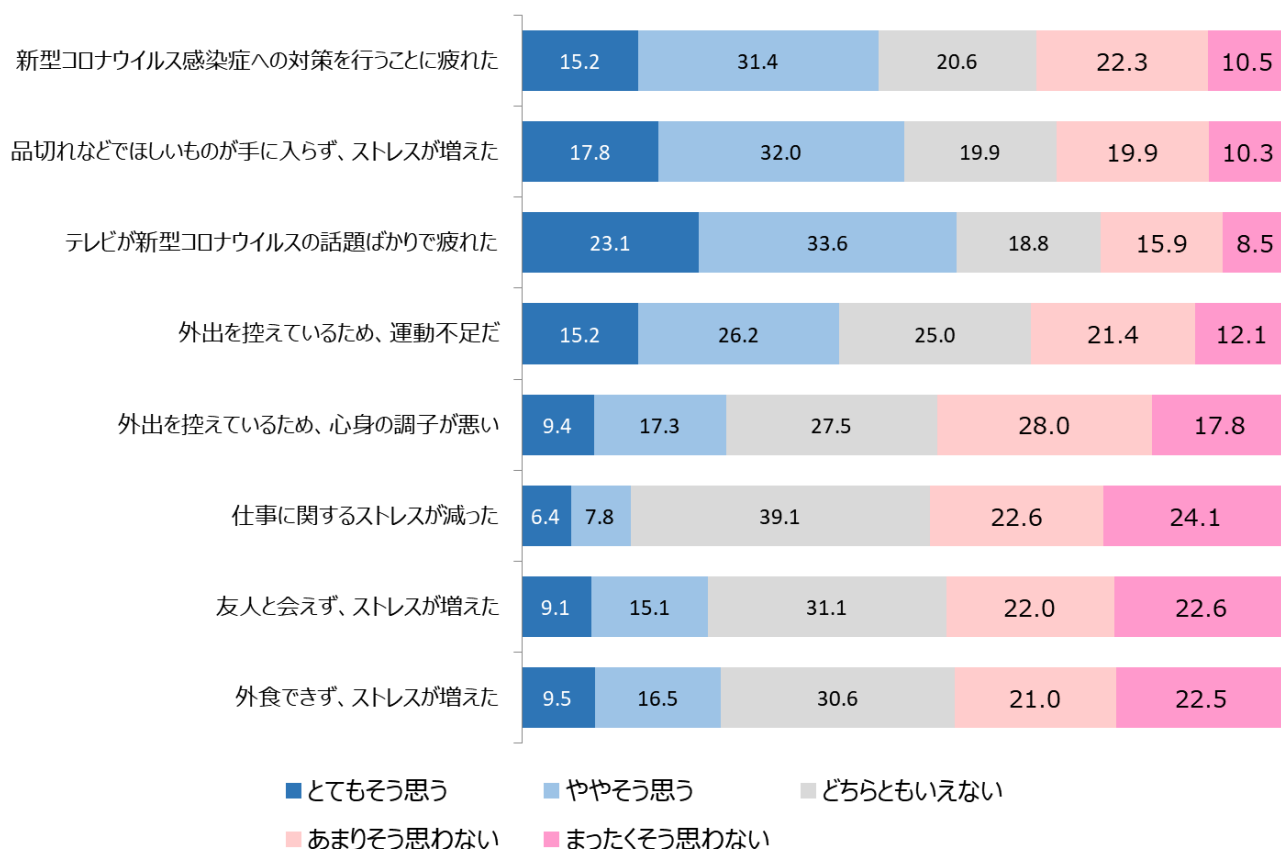
- 現在、心身について自覚する状況を8項目についてたずねたところ、「テレビが新型コロナウイルスの話題ばかりで疲れた」への肯定度（とてもそう思う＋ややそう思う）が56.7%と過半数、次いで「品切れなどでほしいものが手に入らず、ストレスが増えた」（49.8%）、「新型コロナウイルス感染症への対策を行うことに疲れた」（46.6%）が半数近くとなっている

心身の状況

Q あなたの現在の心身の状況について、以下の項目にどの程度あてはまるかお答えください（それぞれ1つずつ）

4/3～4/6調査（第2回調査）

n=4700 単位：%



■用語等の認知・理解

- 第1回調査で比較的認知されていた用語については、同水準もしくは微増のものが多い
- 前回、比較的認知が低かった用語のうち、【クラスター感染】【PCR検査】【COVID-19】は認知や理解が進んでいる一方で、【エアロゾル感染】については、その伸びが小さいことがわかる
- 主に専門家会議委員の会見や都知事会見などを通して認知が拡大したと考えられる【オーバーシュート】【ロックダウン】については、意味を含めて理解・認知しているとの回答が6割前後、「…意味はなんとなくわかる」を合わせた認知度は、8～9割近くとなっている

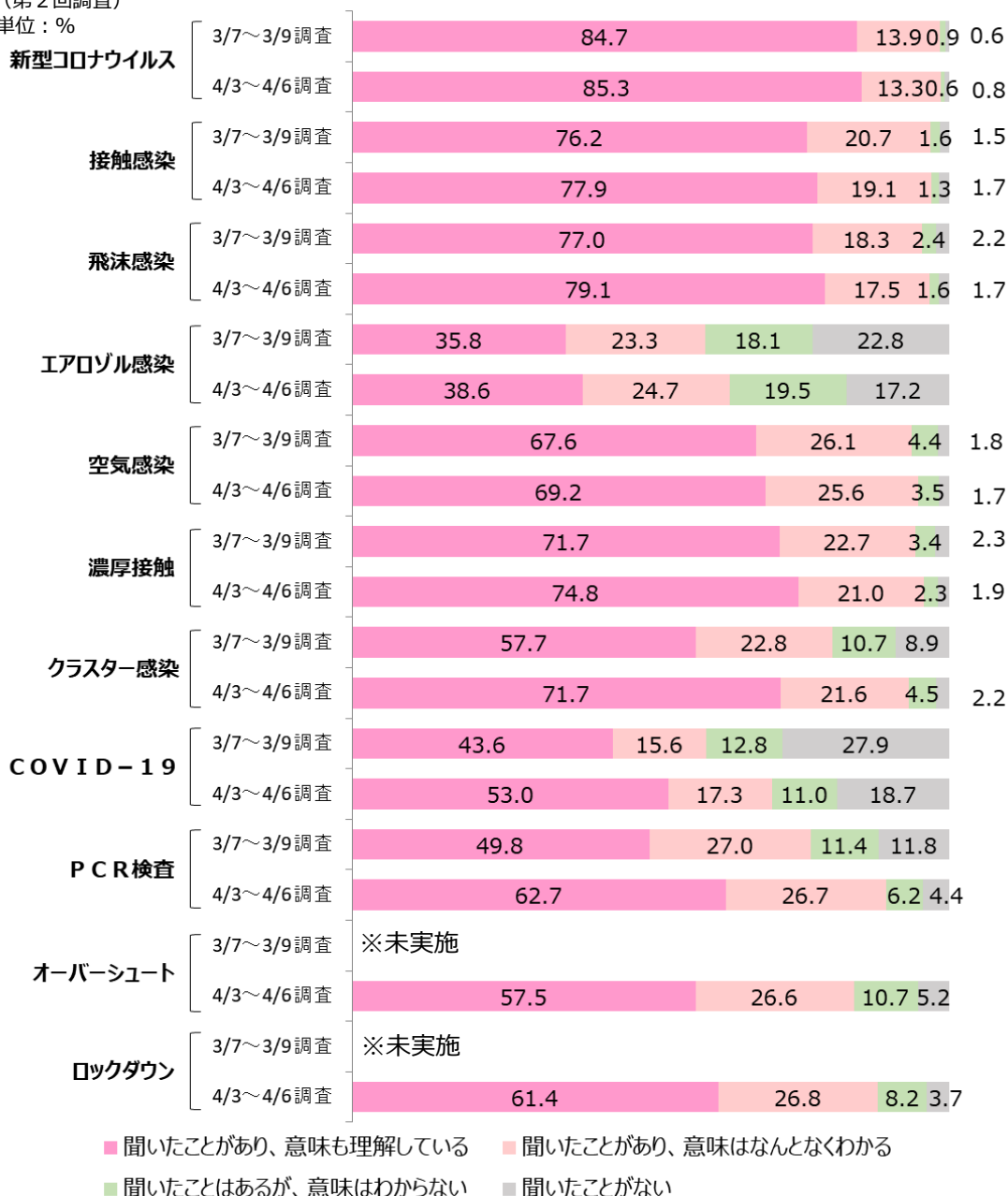
用語等の認知・理解

Q あなたは以下の言葉をご存知ですか（それぞれ1つずつ）

3/7～3/9調査（第1回調査）

4/3～4/6調査（第2回調査）

共にn=4700 単位：%



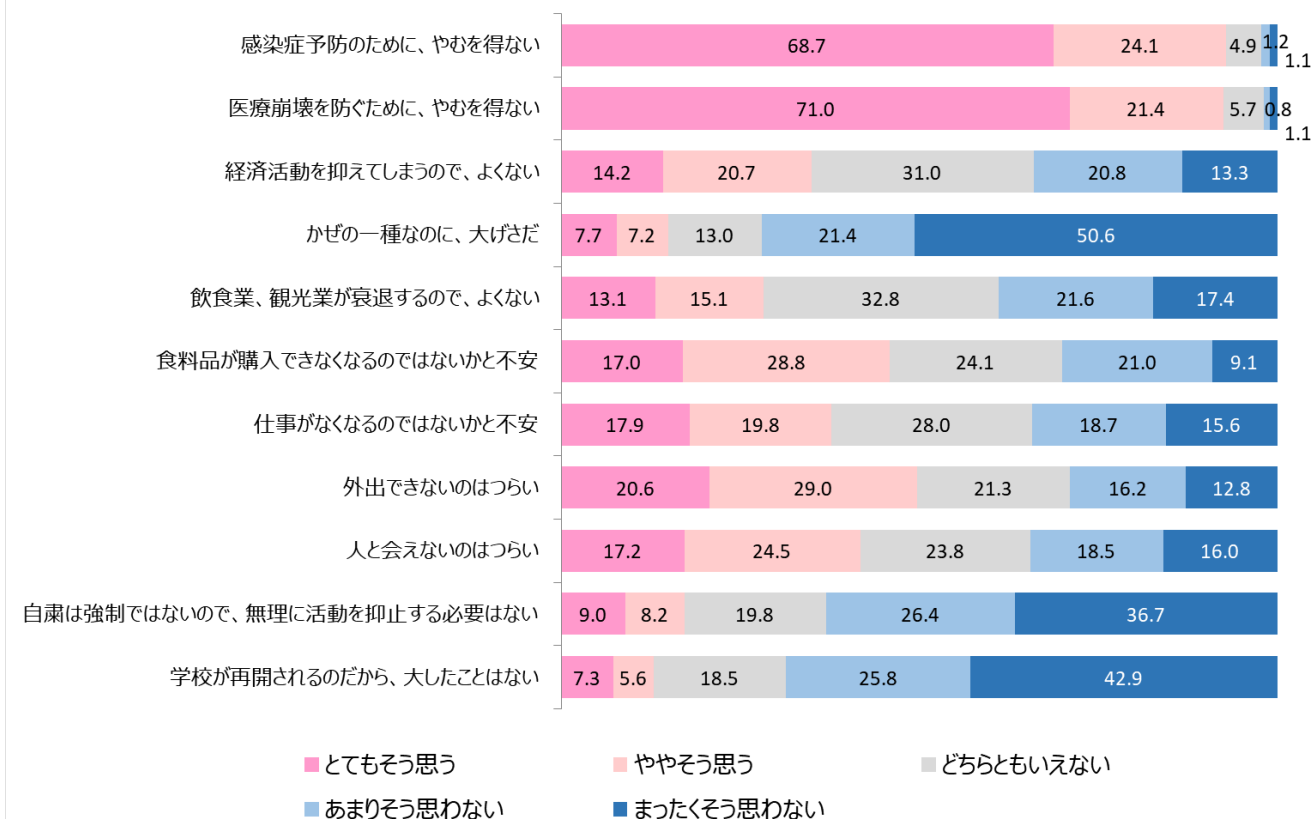
■「自粛要請」「都市封鎖」の受け止め（※調査当時：緊急事態宣言発出以前）

- 不要不急の外出自粛をはじめイベント等の自粛などの要請について、「とてもそう思う」との支持は、【医療崩壊を防ぐために、やむを得ない】【感染症予防のために、やむを得ない】が約7割と多く、「ややそう思う」を加えた肯定層は9割を超えている
- 【自粛は強制ではないので、無理に活動を抑止する必要はない】の肯定層は17.2%
- 【経済活動を抑えてしまうので、よくない】の肯定層は34.9%
- 生活行動の側面では（いずれも肯定層の比率が）【外出できないのはつらい】が49.6%、【食料品が購入できなくなるのではないかと不安】が45.8%、【人と会えないのはつらい】41.7%などとなっている

「自粛要請」への受け止め

Q あなたは、現在の「自粛要請」についてどう思いますか（それぞれ1つずつ）

4/3~4/6調査（第2回調査）
n=4700 単位：%



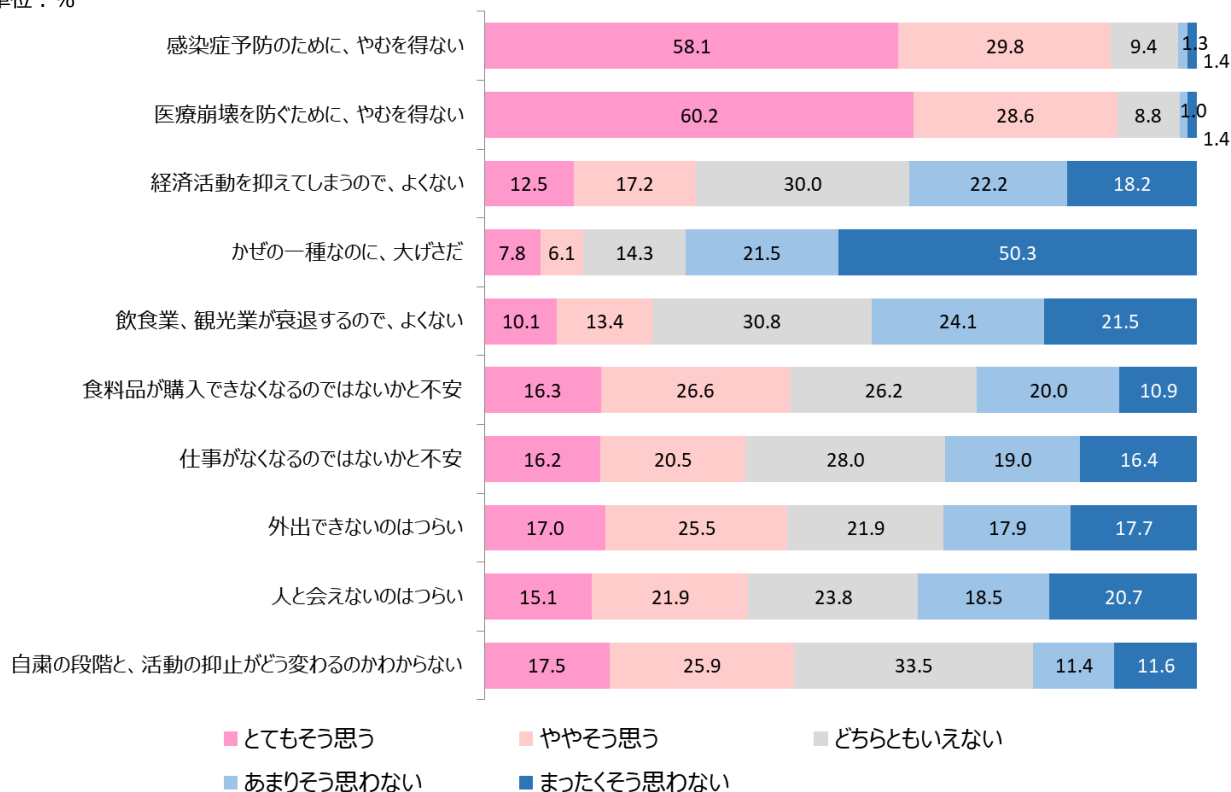
■「自粛要請」「都市封鎖」の受け止め （※調査当時：緊急事態宣言発出以前）

- 海外の都市封鎖の状況や、都知事会見で注目を集めることとなった、国内での都市封鎖の可能性についても自粛要請と同様に質問したところ、肯定層の上位は【医療崩壊を防ぐために、やむを得ない】【感染症予防のために、やむを得ない】と同様だったが、「とてもそう思う」との支持は、自粛要請に比べ10ポイント程度低くなっている
- 【自粛の段階と、活動の抑止がどう変わるのかわからない】については、「とてもそう思う」「ややそう思う」との回答は合わせて43.4%である

「都市封鎖（ロックダウン）」への受け止め

Q 現在、東京都など大都市において、都市封鎖（ロックダウン）の可能性があると言われるようになりました。これについてどう思いますか（それぞれ1つずつ）

4/3~4/6調査（第2回調査）
n=4700 単位：%



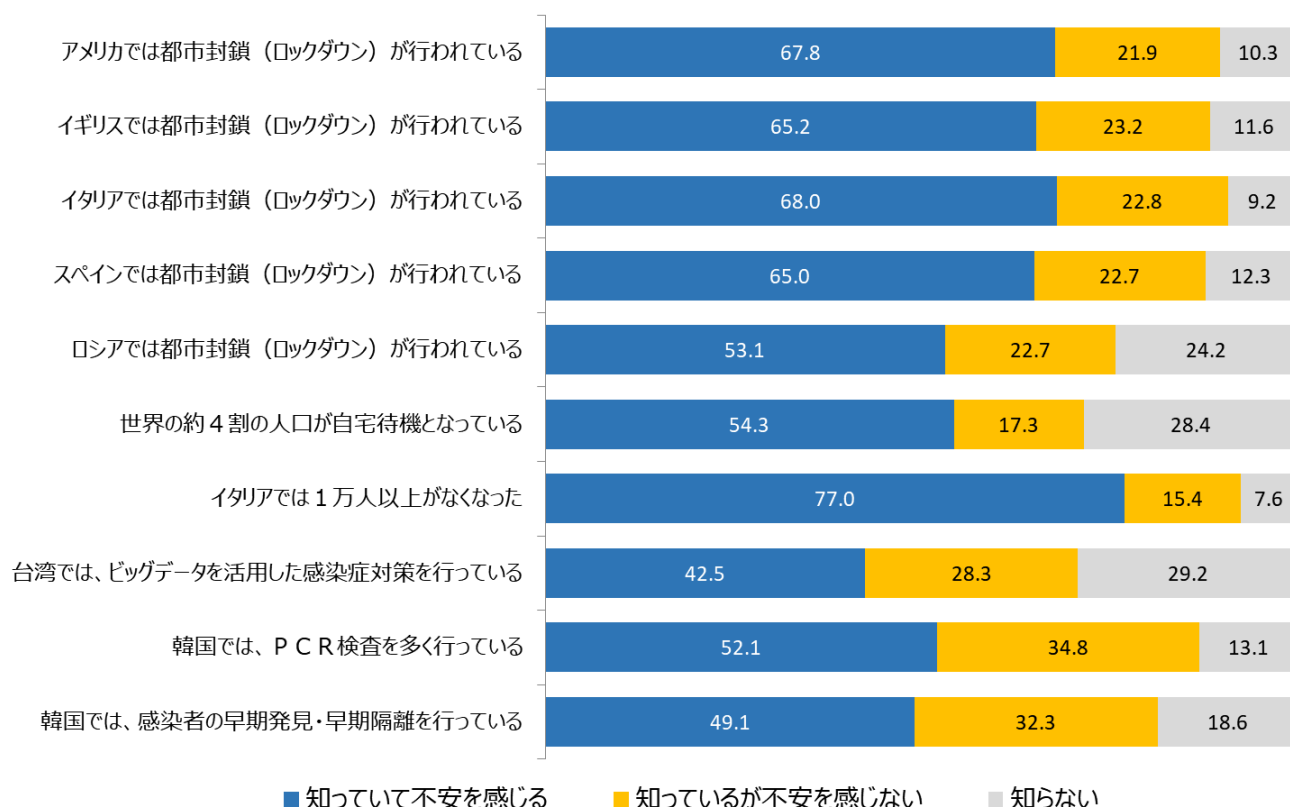
■海外の出来事・取組の認知と不安

- 海外の状況の認知と、それによる不安の有無をたずねたところ、【イタリアでは1万人以上がなくなった】（※調査当時）を「知っていて不安を感じる」と回答した人が77.0%と最も多く、認知度（知っているが不安を感じないを合わせた割合）は92.4%だった
- 各国の都市封鎖はおよそ9割近く（ロシアのみ75.8%とやや低い）が認知し、認知者の半数以上がそのことで不安を感じている

海外の出来事・取組の認知と不安

Q あなたは、海外における次のことを知っていますか（それぞれ1つずつ）

4/3~4/6調査（第2回調査）
n=4700 単位：%



■外出・移動の制限による影響

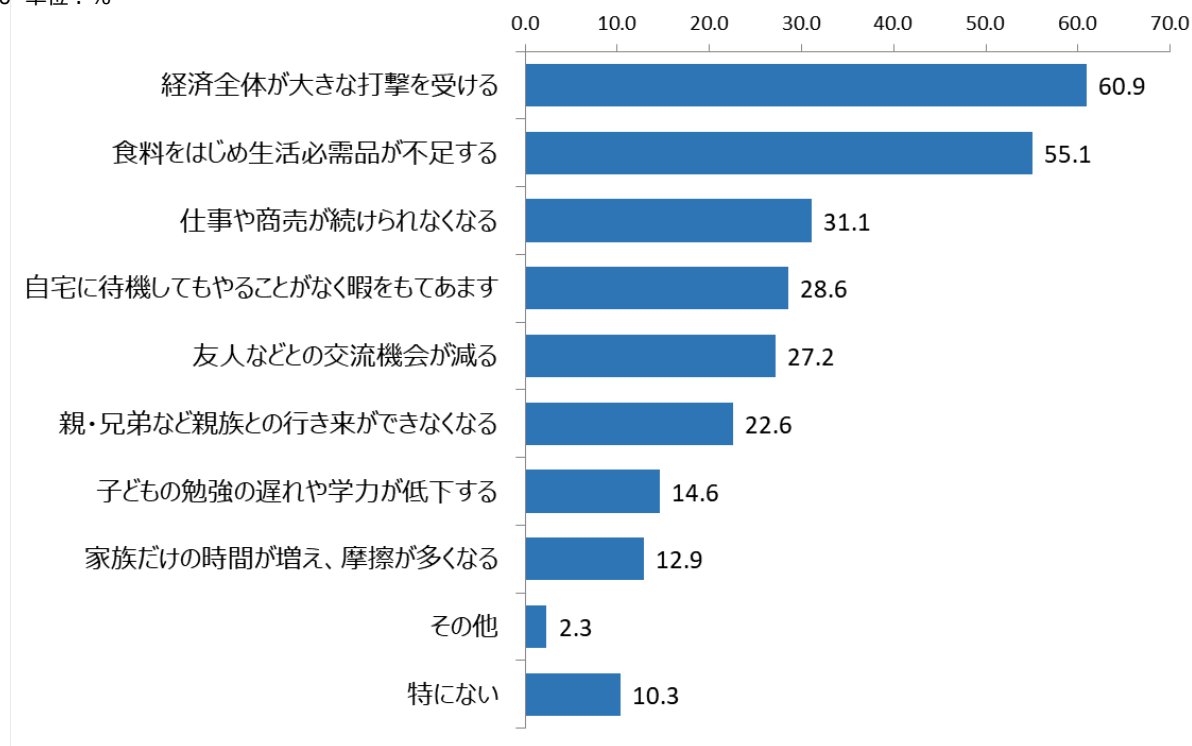
- 調査当時に、政府対策本部「基本的対処方針」原案にあったとされる「21日程度」の外出自粛要請の考え方に基づいて、自分自身への影響をたずねた
- 「経済全体が大きな打撃を受ける」（60.9%）が最も多く、次いで「食料をはじめ生活必需品が不足する」（55.1%）が多かった。この時点では、これまでの店頭品切れの混乱や、前週の都知事会見の直後に発生した一部の買い増し行動などがこの不安につながっていたことがうかがえる

外出・移動の制限による影響

Q あなたが暮らす地域で、「3週間（21日間）程度の間、人の外出や移動を制限する措置などが行なわれた場合」、自分自身に影響が大きいと思うのはどのようなことですか（あてはまるものすべて）

4/3~4/6調査（第2回調査）

n=4700 単位：%



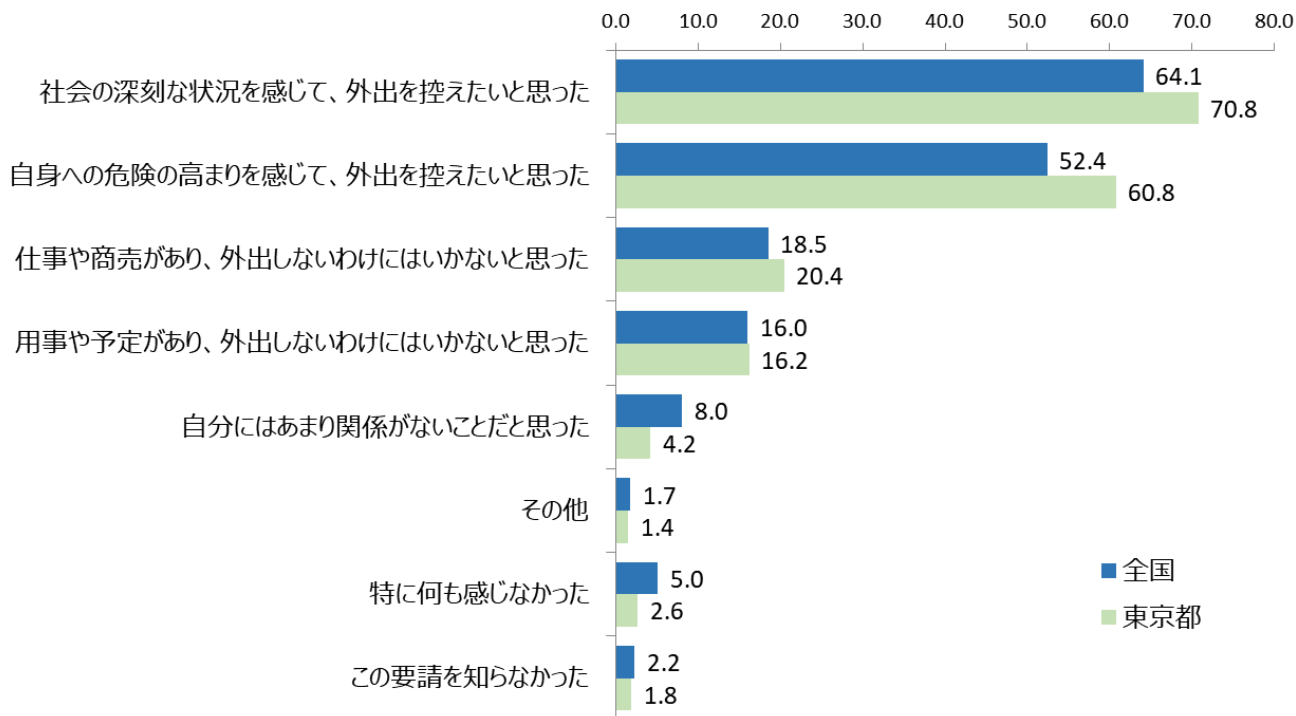
■ 都知事会見「自粛要請」以降の行動について（１）

- 3月25日の都知事会見における「週末の不要不急の外出等を控えることの要請」を踏まえて、3月28日～29日の週末をどう行動しようと思ったか、についてたずねた
- 「社会の深刻な状況を感じて、外出を控えたいと思った」が64.1%と最も多く、次いで「自身への危険の高まりを感じて、外出を控えたいと思った」が52.4%となった
- 仕事や商売、用事や予定などはそれぞれ2割弱みられる
- 大都市集計の東京都分（n=500）では、「社会の深刻な状況を感じて、外出を控えたいと思った」（8ポイント↑）「自身への危険の高まりを感じて、外出を控えたいと思った」（7ポイント↑）の回答比率がやや高くなっている

都知事会見「自粛要請」に対する意識

Q 3月25日（水）の夜、東京都知事が記者会見し、「感染爆発の重大局面」としこの週末の不要不急の外出等を控えることを要請しました。これを見聞きして、あなたはこの週末をどう行動しようと思われましたか（あてはまるものすべて）

4/3～4/6調査（第2回調査）
全国 n=4700 東京 n=500
単位%



■ 都知事会見「自粛要請」以降の行動について（２）

- 3月25日(水曜日)の都知事会見から週末を迎える3月27日（金曜日）までの購買行動を調査し、第1回調査と比較した
- 多くの項目が第1回調査の購買実績（通常よりも多めに買った）、購買意向（購買実績+通常よりも多めに買いたかったが、買えていない）を下回っている
- 【米・パンなどの主食】【水】【インスタ食品】【冷凍食品】【チョコレートなどのお菓子】で第1回調査をやや上回る購買意向がみられる

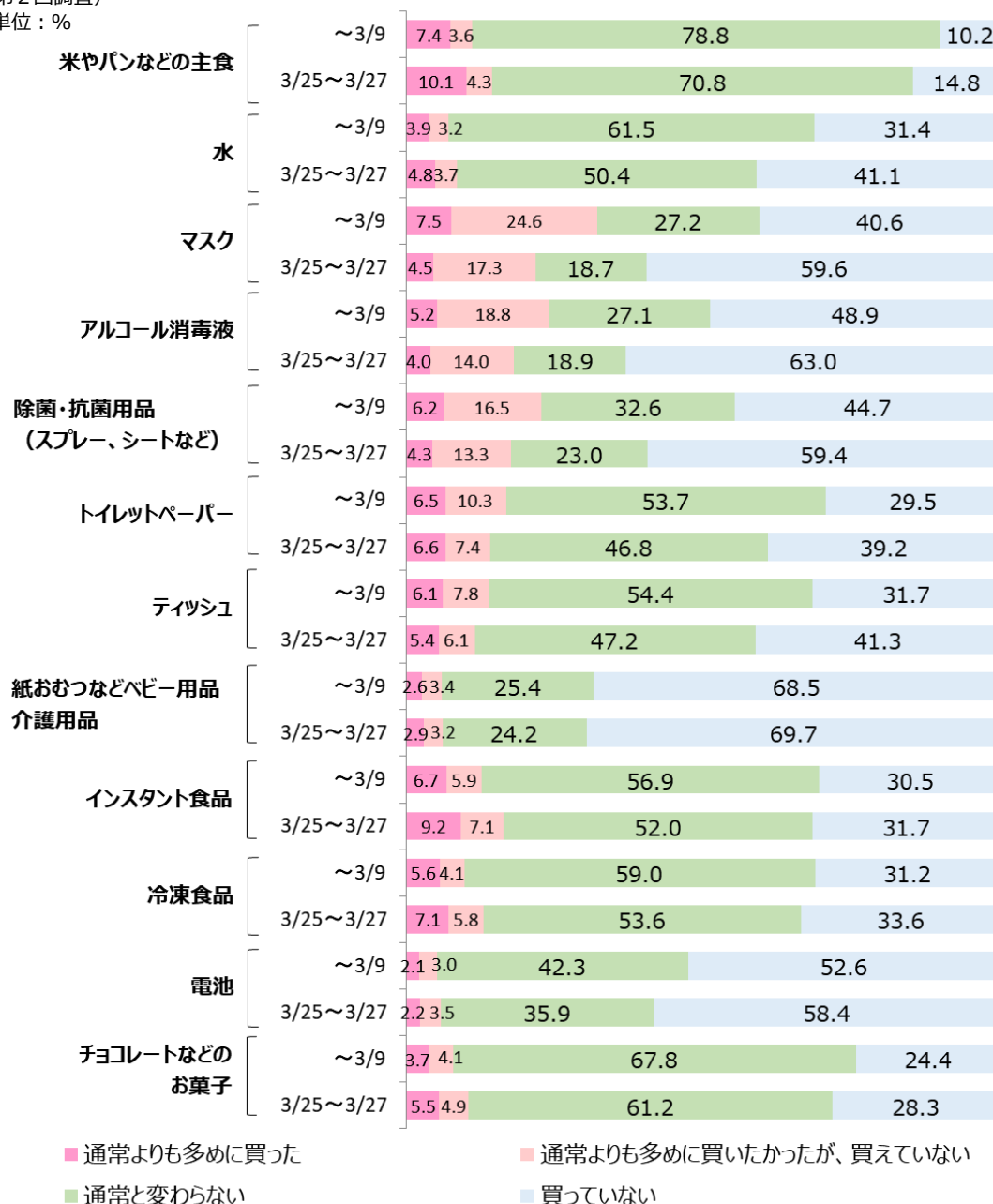
買い物行動の変化

Q 3月25日(水曜日)の東京都知事が記者会見から、週末を迎える3月27日（金曜日）までのお買い物は、普段と比べて変わりましたか。以下についてお答えください（それぞれ1つずつ）

～3/9（第1回調査）

3/25～3/27（第2回調査）

共にn=4700 単位：％

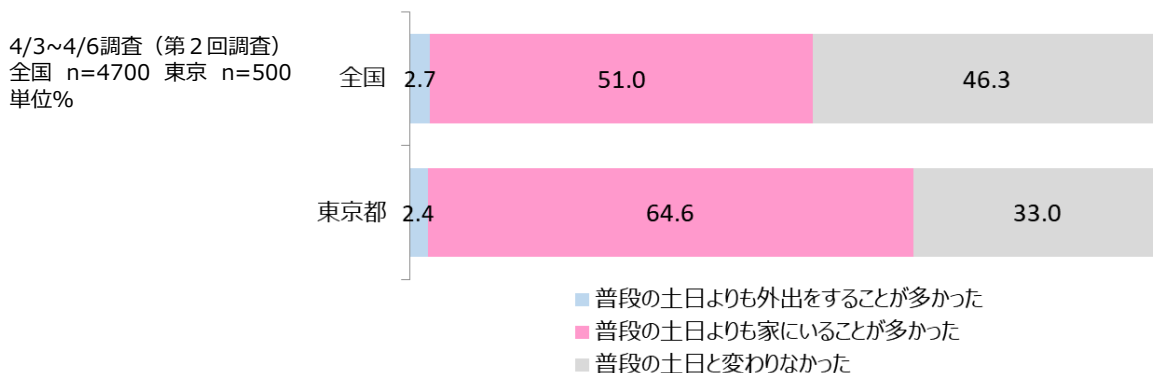


■都知事会見「自粛要請」以降の行動について（3）

- 実際に、3月28日～29日の週末をどう過ごしたかをたずねたところ、「普段の土日よりも家にいることが多かった」との回答が51.0%である一方、「普段の土日と変わりなかった」との回答も46.3%あった
- 「普段の土日よりも家にいることが多かった」理由は、「感染するのではと人混みが怖かったから」（70.2%）、「外出自粛要請があったから」（67.6%）の二点に回答が集中したが、およそ4人に1人は「天気が悪かったから」（23.4%）との理由も選択している
- 大都市集計の東京都分（n=500）では、「普段の土日よりも家にいることが多かった」との回答が全国に比べ14ポイント高く、その理由では「外出自粛要請があったから」全国に比べ20ポイント以上高い

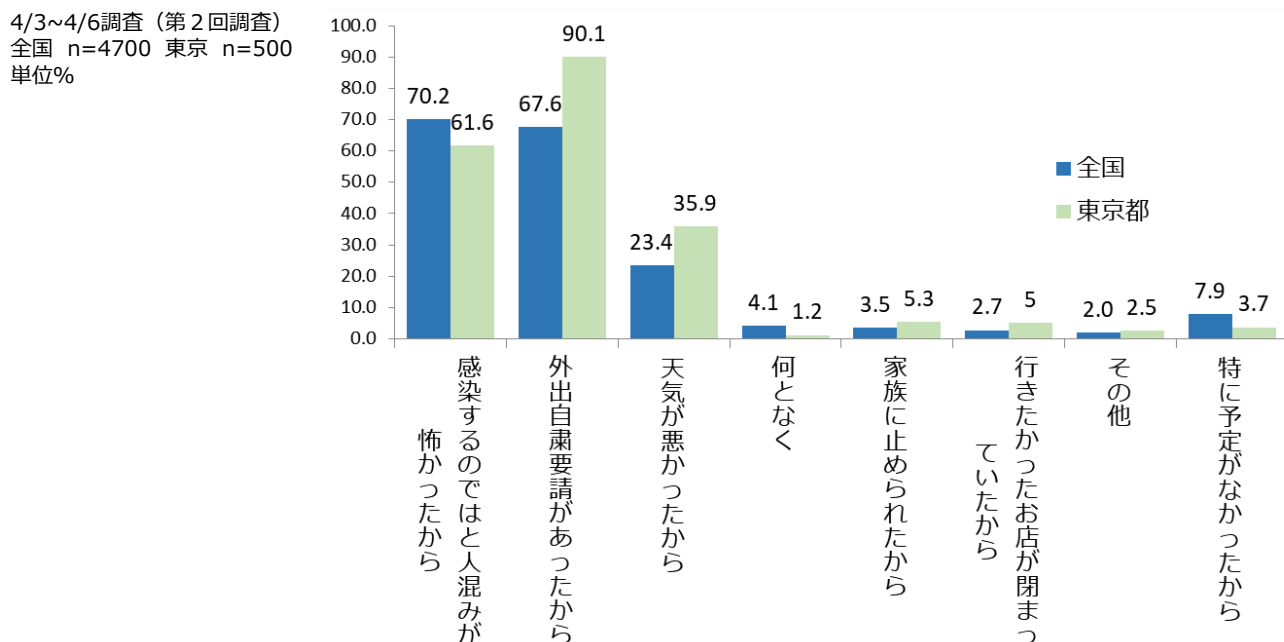
3月28日（土曜日）・29日（日曜日）の過ごし方

Q 先週末の3月28日（土曜日）と29日（日曜日）に、あなたは主にどのように過ごしましたか（回答は1つだけ）



普段の土日よりも在宅が多かった理由

Q 普段の土日よりも家にいることが多かった理由は何ですか（あてはまるものすべて）



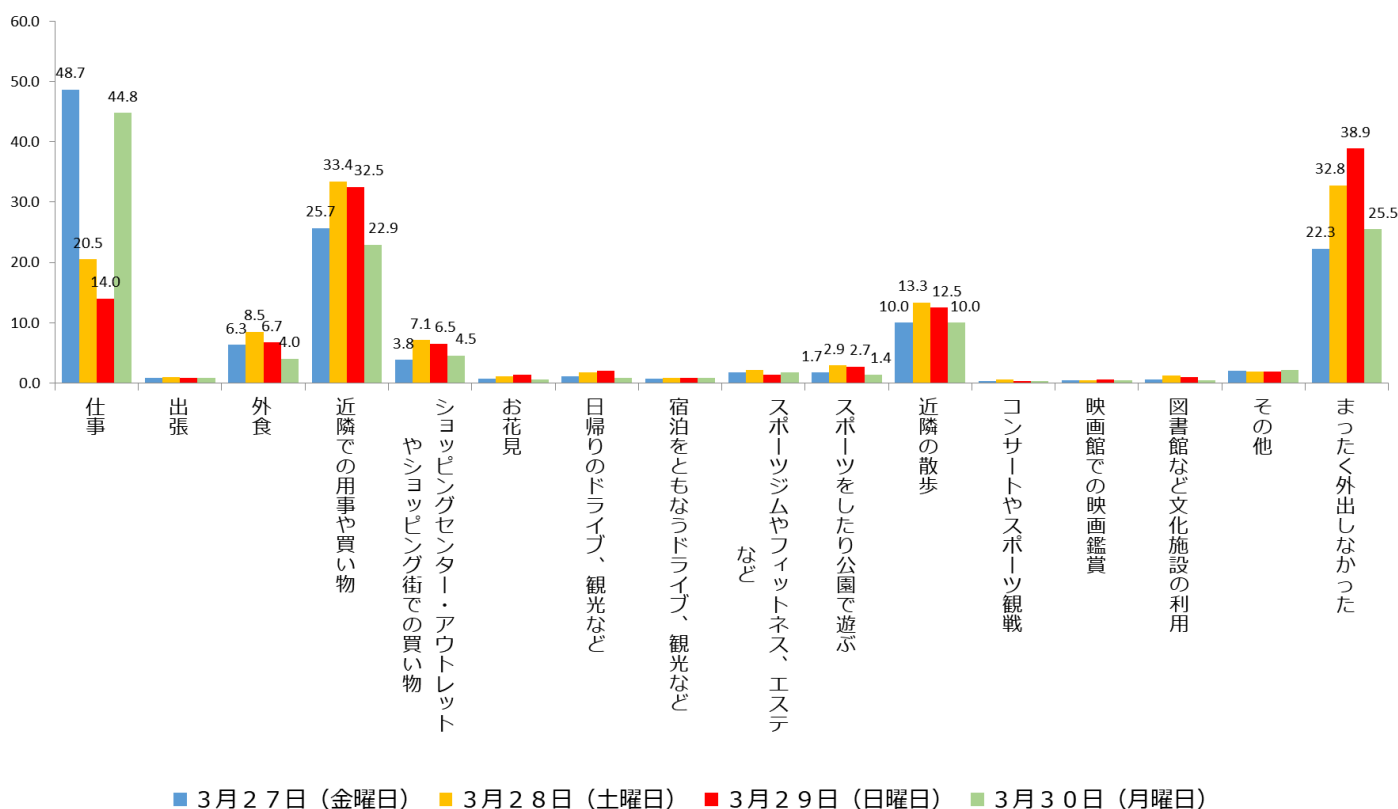
■都知事会見「自粛要請」以降の行動について（４）

- 週末を含む3月27日～30日の4日間の主な外出行動をたずねたところ、【仕事】以外では【近隣での用事や買い物】が多い他、【近隣の散歩】【外食】【SC等での買い物】がやや目立つ
- 仕事以外では、金曜日・月曜日に比べ土日の回答比率が高く【近隣での用事や買い物】は8～10ポイント程度、金曜日・月曜日より高くなっている
- 【まったく外出しなかった】人は、土曜日が32.8%、日曜日が38.9%で、金曜日・月曜日に比べ7～17ポイント程度、金曜日・月曜日より高くなっている

3月27日（金曜日）～30日（月曜日）の外出

Q 先週末の3月27日（金曜日）～30日（月曜日）の間に、以下のような外出をしましたか（あてはまるものすべて）

4/3～4/6調査（第2回調査）
n=4700 単位：%



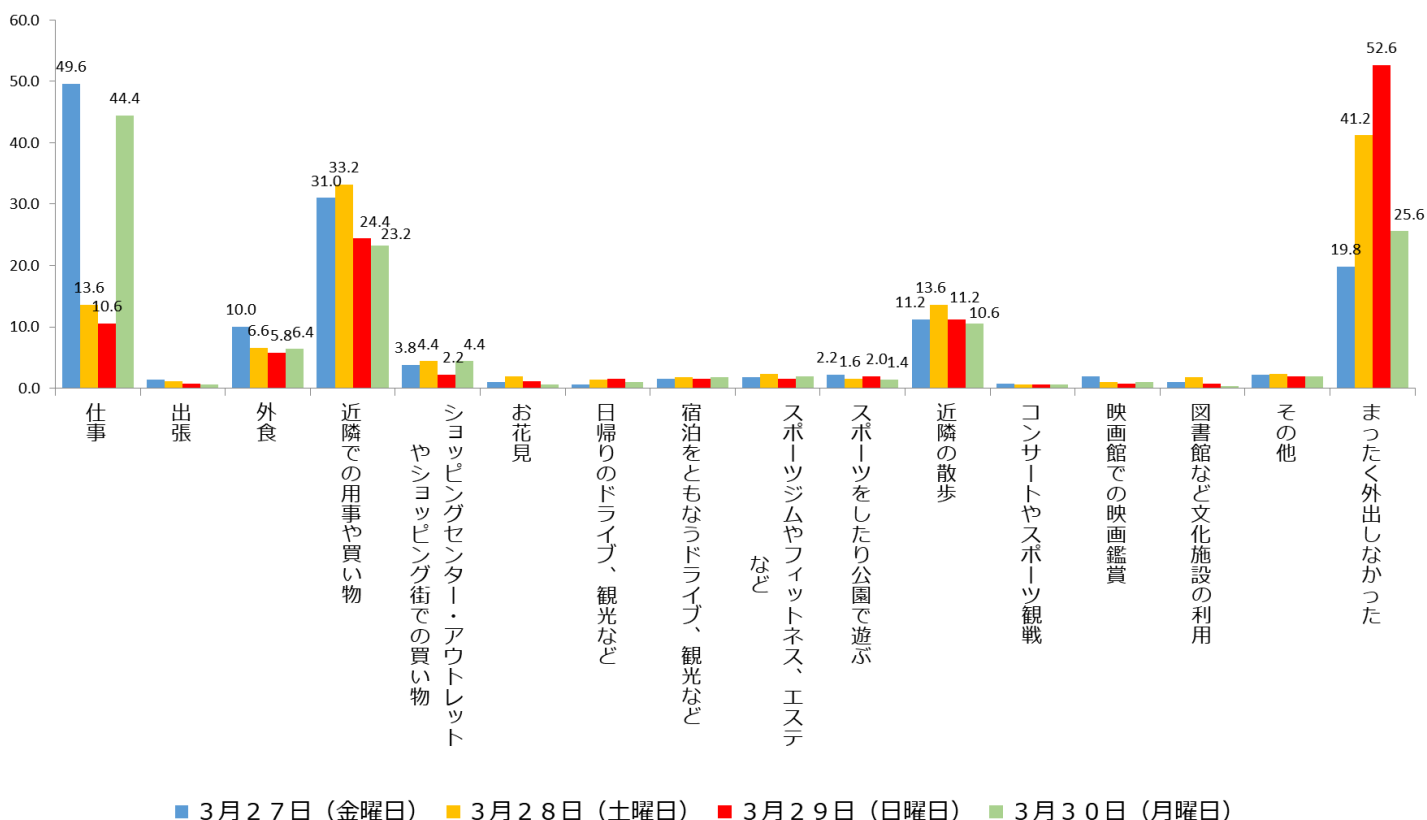
■都知事会見「自粛要請」以降の行動について（５）

- 大都市集計の東京都分（n=500）では、全国に比べ【仕事】については土日の活動が数ポイント低く、【近隣での用事や買い物】は金曜日でやや高く土曜日はほぼ全国と同様、日曜日が8ポイント下回っている。【近隣の散歩】は全国とほぼ同様である
- 【まったく外出しなかった】人は、金曜日・月曜日はほぼ全国と同様だが、土曜日は全国を8ポイント上回り、日曜日は14ポイント上回っている

3月27日（金曜日）～30日（月曜日）の外出 【東京都】

Q 先週末の3月27日（金曜日）～30日（月曜日）の間に、以下のような外出をしましたか（あてはまるものすべて）

4/3～4/6調査（第2回調査）
東京都 n=500 単位：％



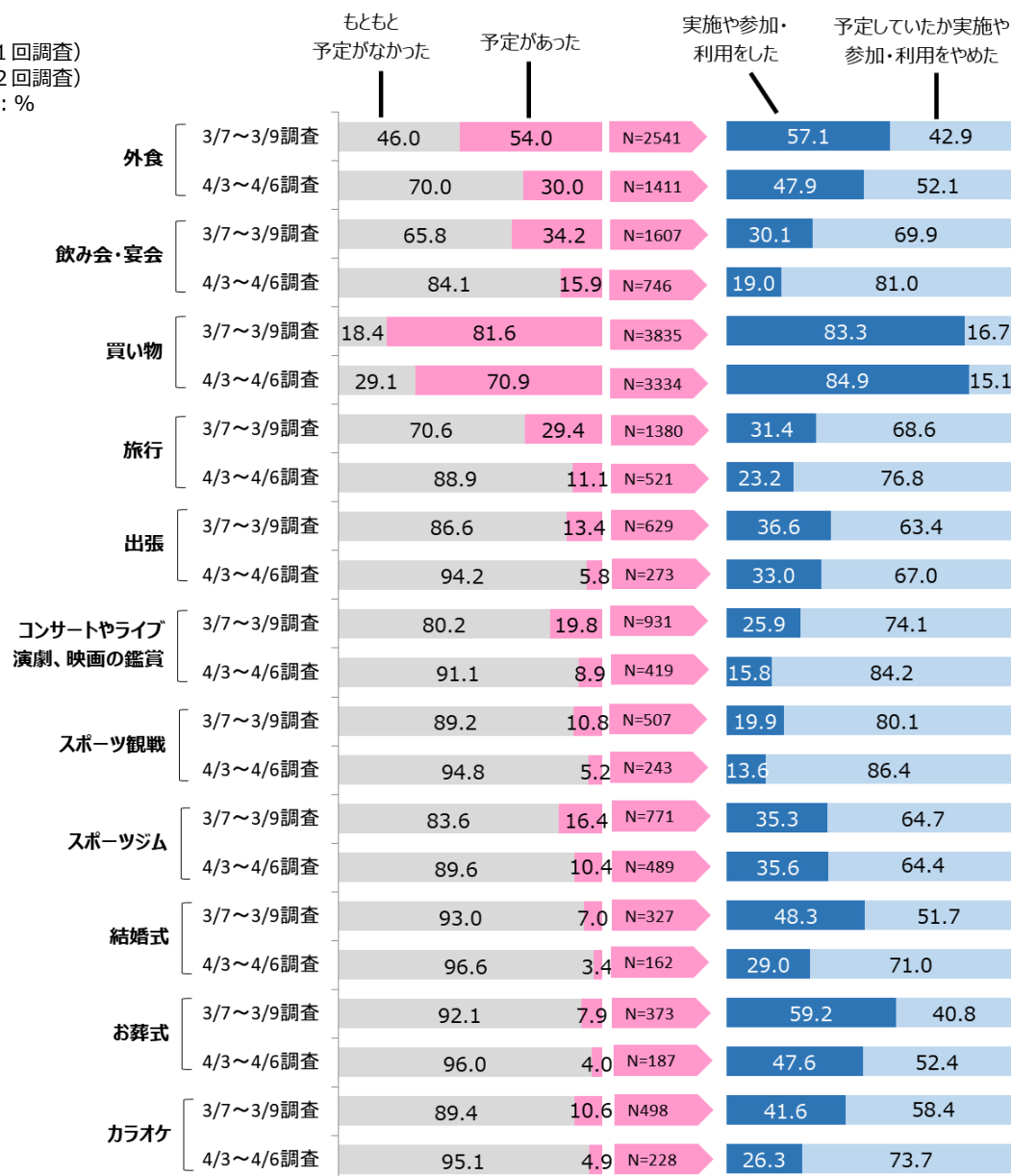
■都知事会見「自粛要請」以降の行動について（6）

- 調査時点の1週間くらいの間で、利用や参加を控えている行動を調査したところ、予定があった行動のうち、実施の割合が最も高いのは【買い物】（84.9%）で、この点は第1回調査とほぼ変動がない
- 他の項目は、ほぼ第1回調査を下回る実施・参加率で【結婚式】19ポイント↓【カラオケ】15ポイント↓【お葬式】12ポイント↓【飲み会・宴会】11ポイント↓【コンサート】10ポイント↓【外食】9ポイント↓などとなっている
- 【スポーツジム】は、35.6%と第1回調査（35.3%）とほぼ同水準である点が特徴的である

利用や参加を控えていること

Q ここ1週間くらいの間、あなたが利用や参加などを控えているものはありますか。以下についてお答えください（それぞれ1つずつ）

3/7～3/9調査（第1回調査）
4/3～4/6調査（第2回調査）
共にn=4700 単位：%



■都知事会見「自粛要請」以降の行動について（7）

- 交通機関利用による移動は、利用予定のうち、控えたい意向（避けている＋避けたいがやむを得ず利用している）が、どの移動手段においても第1回調査を上回っている
- 実際の利用度（避けたいがやむを得ず利用している＋特に気にせず利用している）が比較的高いのは【電車の移動】で、52.5%と半数を超える。【バスの移動】や【混雑時の電車の移動】は3割台に下がっているが、日常の身近な交通手段は、いずれも控えたい意向に対して利用度が高い

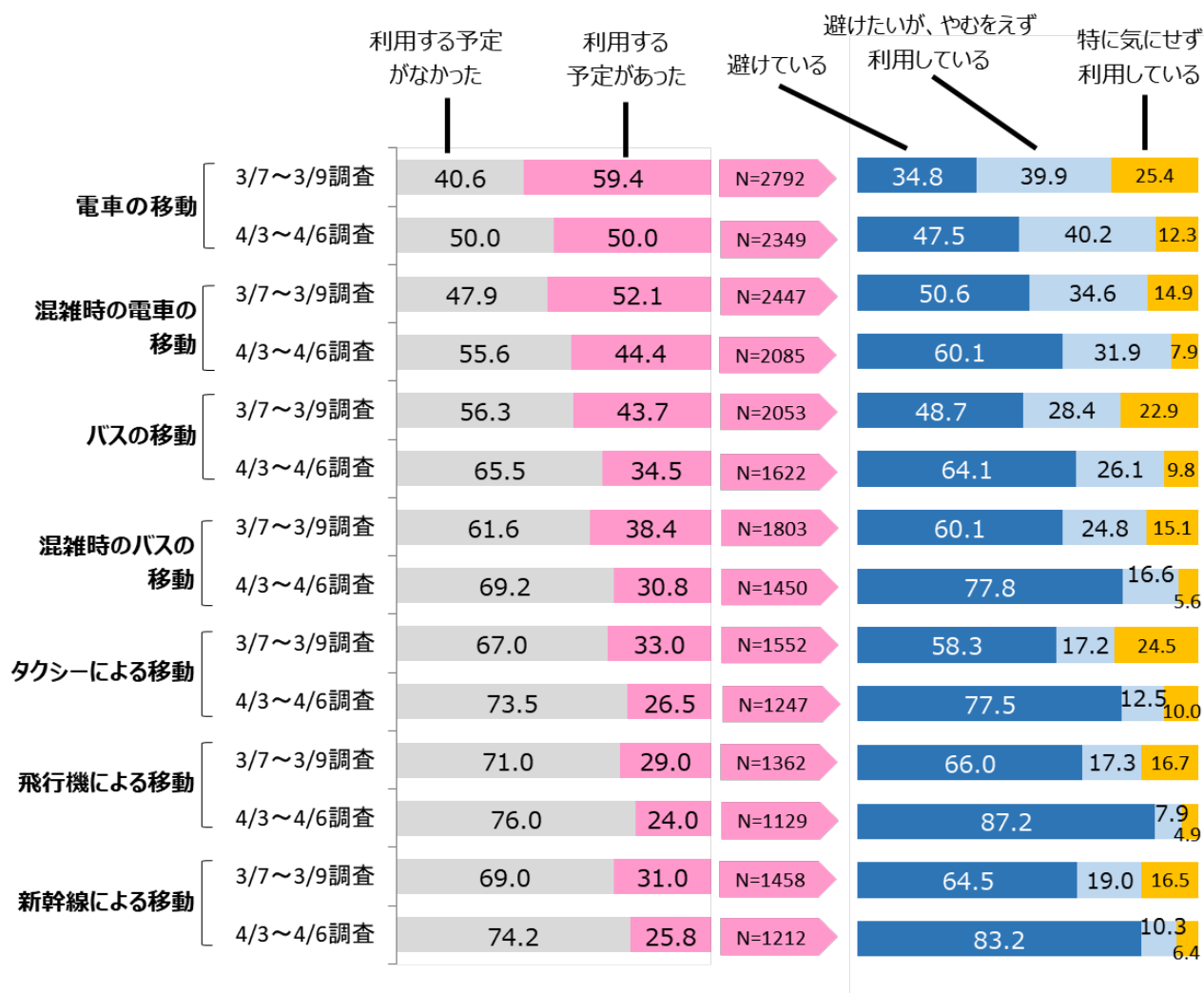
交通機関（移動）を控えていること

Q ここ1週間くらいの間、あなたが利用を控えているものはありますか。以下についてお答えください（それぞれ1つずつ）

3/7～3/9調査（第1回調査）

4/3～4/6調査（第2回調査）

共にn=4700 単位：%



■3月20日からの三連休について（1）

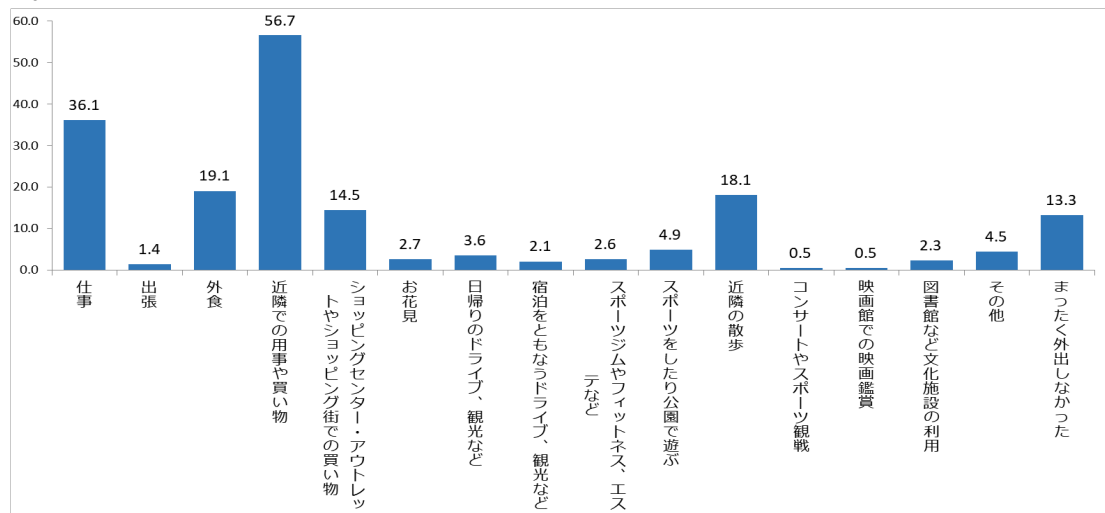
- ここからは、遡る3月20日金曜日（春分の日）からの三連休の行動について調査した結果を示す
- この3日間では、「近隣での用事や買い物」が56.7%と最も高く、以下「仕事」（36.1%）、「外食」（19.1%）、「近隣の散歩」（18.1%）、「SC等での買い物」（14.5%）などとなっている
- 三連休の間「まったく外出しなかった」人は13.3%である

3月20日（金曜日・祝日）～22日（日曜日）の外出

Q 3月20日（金曜日・祝日）～22日（日曜日）の間に、以下のような外出をしましたか（あてはまるものすべて）

4/3～4/6調査（第2回調査）

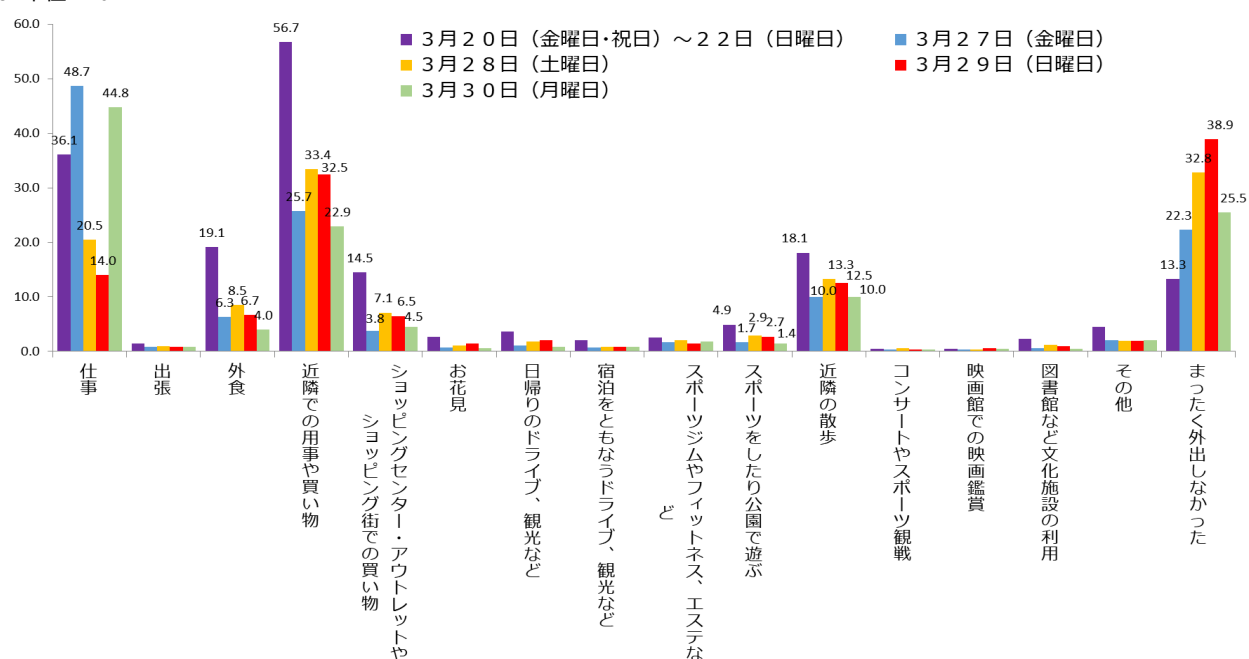
n=4700 単位：%



3月20日～22日及び3月27日～30日の外出（再掲）

4/3～4/6調査（第2回調査）

n=4700 単位：%



■3月20日からの三連休について（2）

- 全般的に、第1回調査の3月9日以前と比べ、購買実績（通常よりも多めに買った）、購買意向（購買実績+通常よりも多めに買ったが、買えていない）共に下回っている

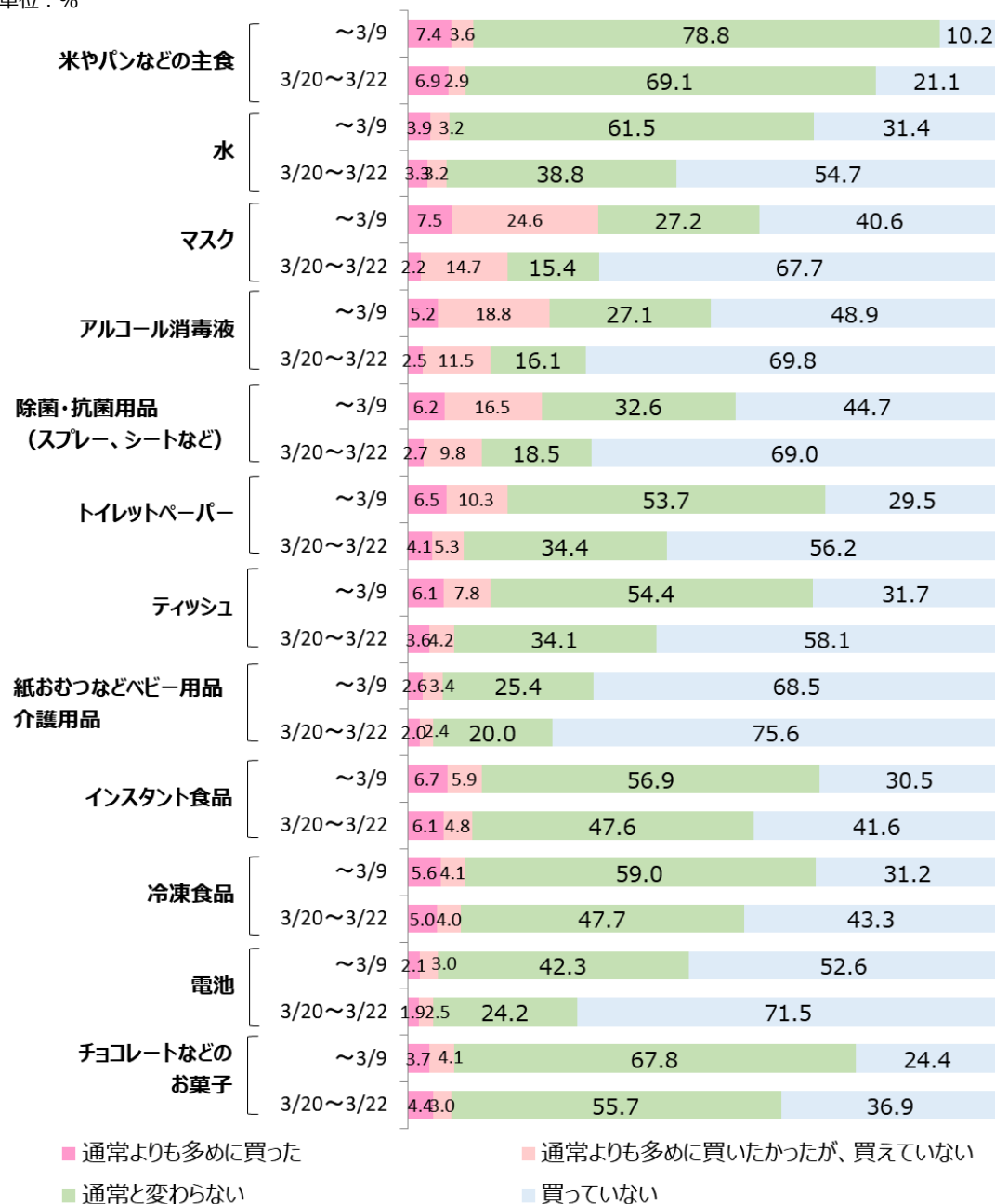
買い物行動の変化

Q 3月20日（金曜日・祝日）～22日（日曜日）の間のお買い物は、普段と比べて変わりましたか。以下についてお答えください（それぞれ1つずつ）

～3/9（第1回調査）

4/3～4/6（第2回調査）

共にn=4700 単位：%

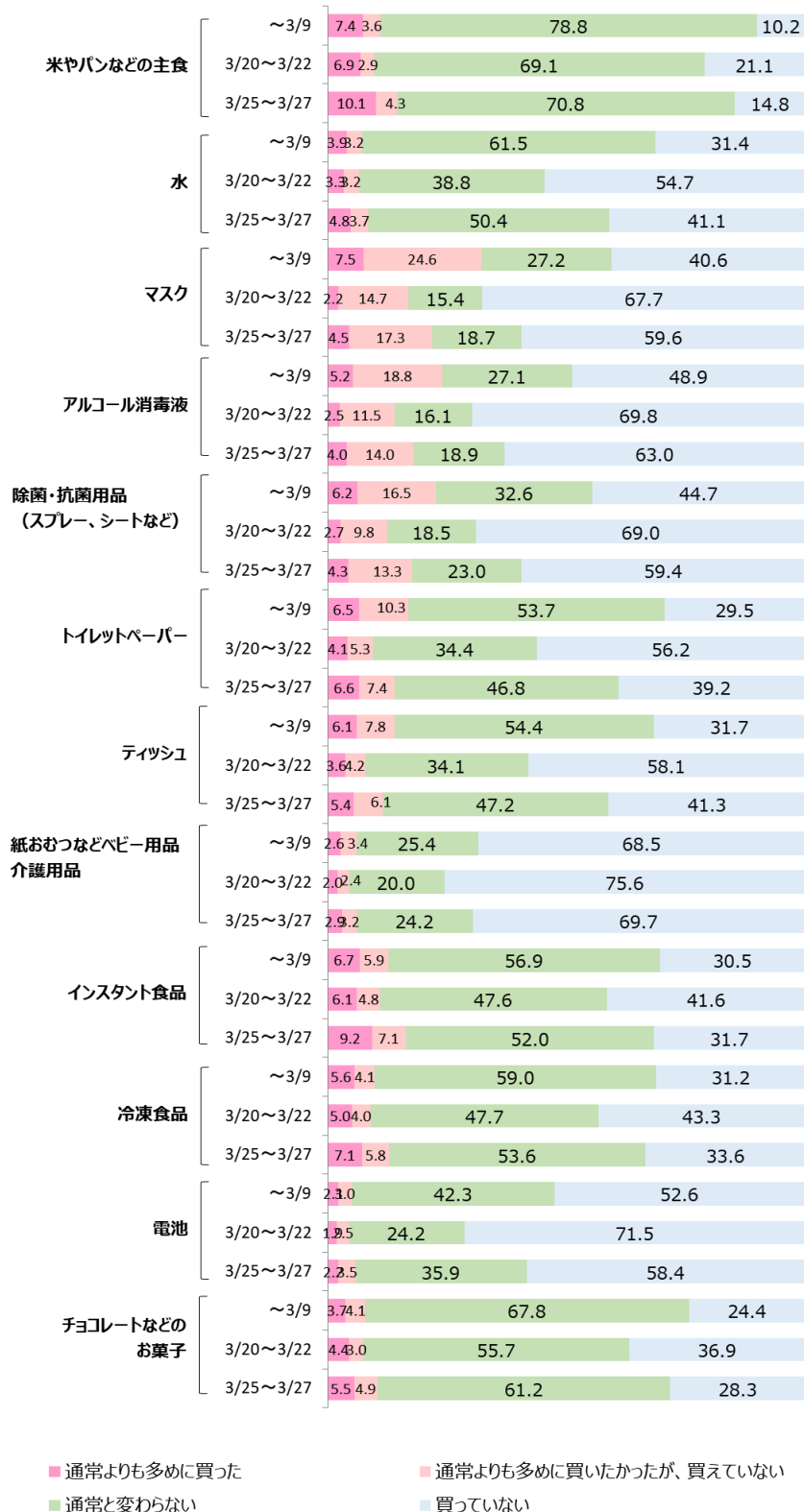


■3月20日からの三連休について（3）

買い物行動の変化（3時点での変化・再掲）

Q お買い物は、普段と比べて変わりましたか。以下についてお答えください（それぞれ1つずつ）

～3/9（第1回調査）
3/20～3/22（第2回調査）
3/25～3/27（第2回調査）
共にn=4700 単位：％



■不安の要因・生活への影響（１）

- 具体的な不安に関して、第1回調査からの継続7項目と新たな4項目について不安の程度をたずねた
- 継続項目は2回の調査で大きな変動がない項目と「とても不安を感じる」への回答が増加している項目に分かれている。特に不安の増加が目立つ項目は【…見通しがわからない】【…治療薬やワクチンなどが無い】【ウイルスが目に見えない…】である。新たな項目では【日本でも、感染者の爆発的な増加が起こり得ること】に「とても不安を感じる」（63.8%）との回答が最も多い

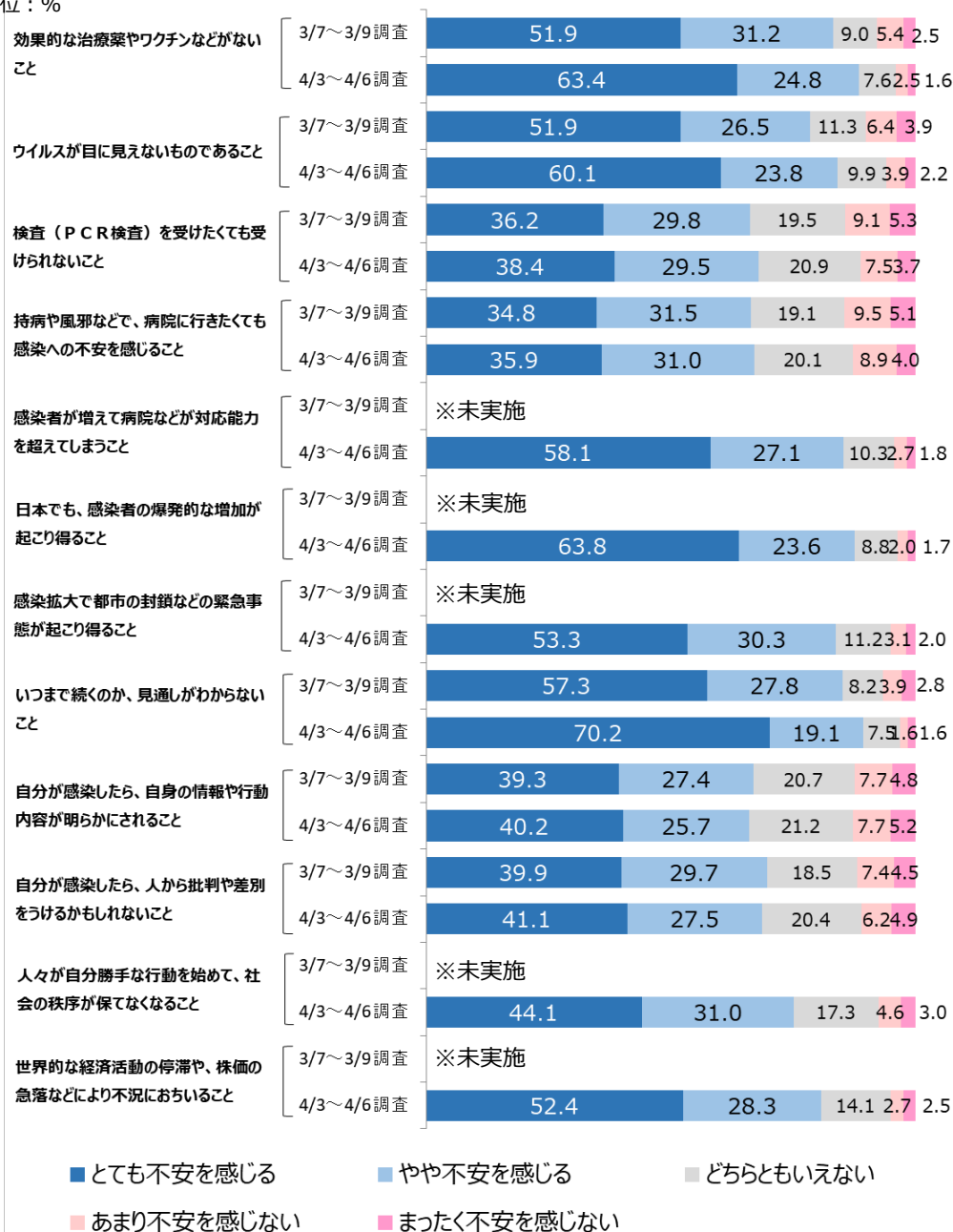
不安の要因

Q 新型コロナウイルス感染症を知ってから、あなたが具体的に不安を感じていることはありますか。以下についてお答えください（それぞれ1つずつ）

3/7～3/9調査（第1回調査）

4/3～4/6調査（第2回調査）

共にn=4700 単位：％



■不安の要因・生活への影響（２）

- 新型コロナウイルス禍における生活への影響については、「買い物での品薄・品切れに対する判断」（56.6%）が最も多く、以下「外出や移動が気になり」（50.1%）「漠然とした不安が続くこと」（47.5%）「経済や景気への影響」（43.4%）「仕事の仕方への影響」（36.4%）「日常の通院などが気になり」（30.2%）の順となっている
- 第1回調査に比べ大きな増加項目はないが、減少した項目では、延期が決まった「札幌の開催への影響」、開催自粛が進んでいる「コンサートや観劇、スポーツ観戦などへの影響」が目立つ

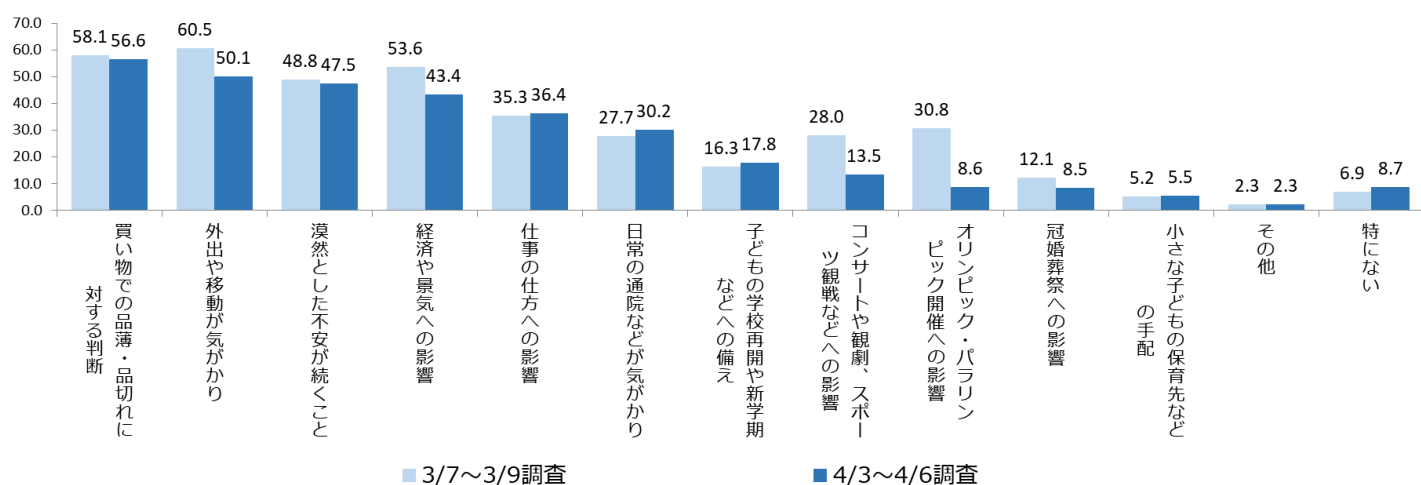
生活への影響

Q 新型コロナウイルス感染症の問題に関して、あなたの生活に影響が及んでいるものはありますか（あてはまるものすべて）

3/7～3/9調査（第1回調査）

4/3～4/6調査（第2回調査）

共にn=4700 単位：％



■感染防止の行動（１）

- 感染防止のために行っている行動の上位項目は、第1回調査と同様だが、「屋内の換気」「手すりやドアノブなどに触れた指先で目・鼻・口を触らない」「定期的な体温の測定」などで前回調査よりやや実施率が高くなっている
- さらに拡大防止などの行動として「人が密集するような場所へ行くことを避ける」（80.6%）が最も多く、「食事会や飲み会などに行かない」「必要以上に買いだめしたり、多くの店で買い漁ったりしない」が半数前後となり、以下多くの項目が3～4割台に分布している

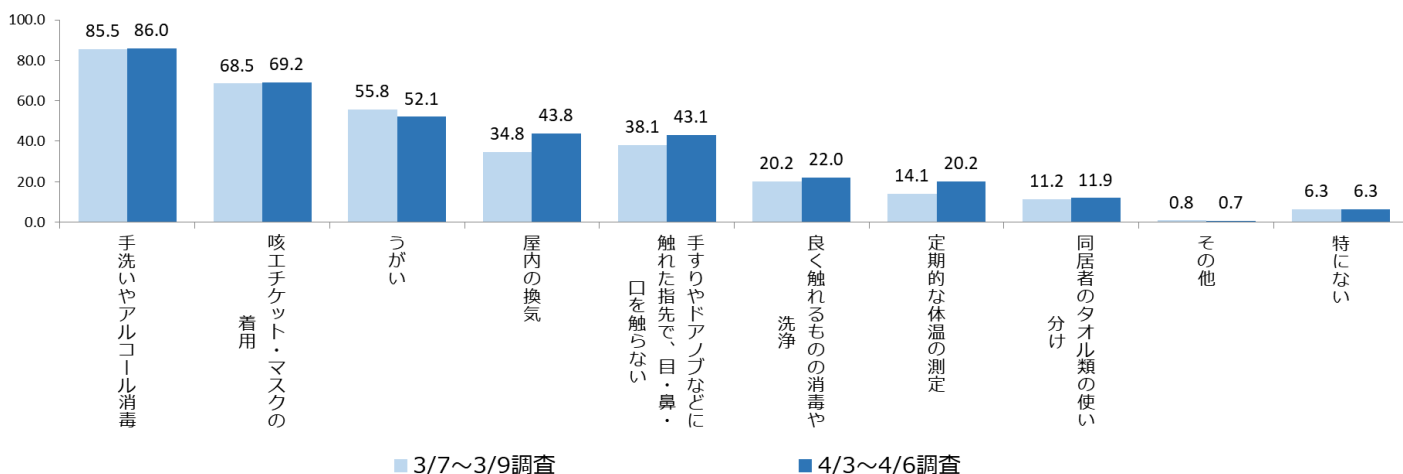
感染防止などのための行動①

Q あなたご自身が、感染防止のために、特に気をつけて行っていることは何ですか（あてはまるものすべて）

3/7～3/9調査（第1回調査）

4/3～4/6調査（第2回調査）

共にn=4700 単位：%



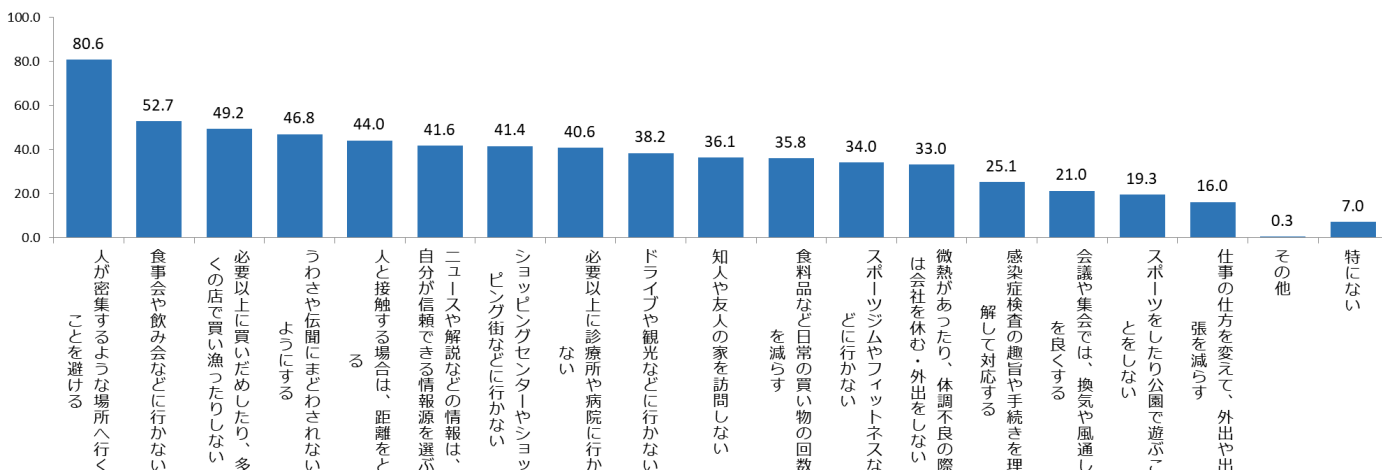
感染防止などのための行動②

Q 前問で示した感染防止の行動の他に、感染症の拡大などを防ぐために、あなたが行っていることは何ですか（あてはまるものすべて）

3/7～3/9調査（第1回調査）

4/3～4/6調査（第2回調査）

共にn=4700 単位：%



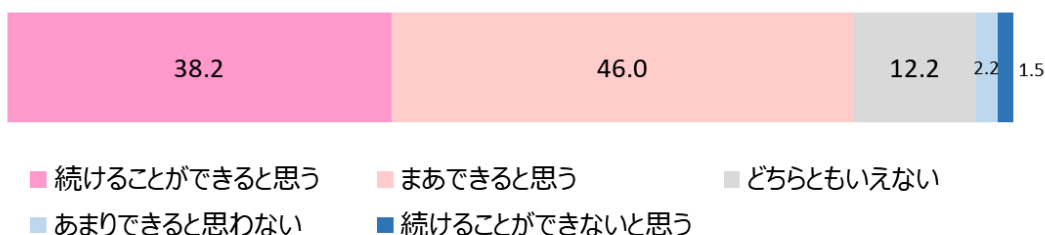
■感染防止の行動（２）

- 前頁に示した感染や拡大の防止のための行動や考えを、実行し続けることについては「まあできると思う」が46.0%と最も多く「続けることができると思う」を合わせた肯定層が84.2%となった

行動の継続について

Q あなたは、Q12やQ13で行っている行動や、大切だと考えていることについて、事態が収束するまでの期間、実行し続けることができますか（回答は1つだけ）

4/3~4/6調査（第2回調査）
n=4501 単位：%



■情報について（１）

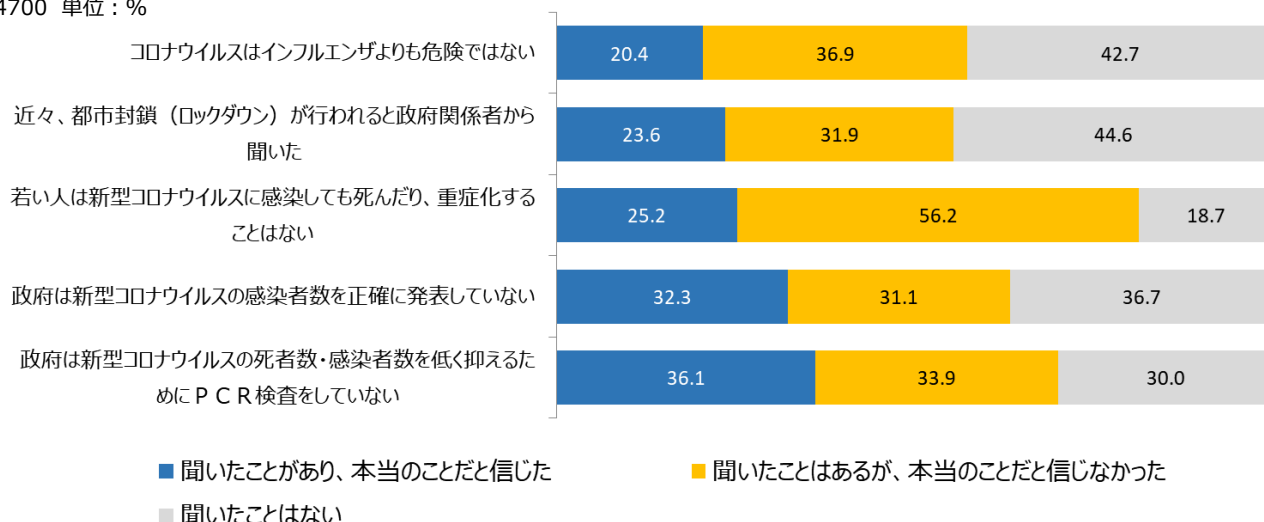
- 関連したうわさの認知度（聞いたことがあり本当のことだと信じた+聞いたことはあるが本当のことだと信じなかった）は「若い人は新型コロナウイルスに感染しても死んだり重症化することはない」が81.4%と最も高い
- 本当だと信じた項目では、「政府は新型コロナウイルスの死者数・感染者数を低く抑えるためにPCR検査をしていない」（36.1%）、「政府は新型コロナウイルスの感染者数を正確に発表していない」（32.3%）に多く、認知者のうちの過半数が信じたと回答している
- 役立った情報源の上位項目は第1回調査と大きな差異はない。今回の調査で「市区町村のホームページ」の選択肢を追加したところ16.3%となった

うわさ話について

Q 今回の新型コロナウイルス感染症に関連したうわさ話を聞いたことがありますか。以下についてお答えください。（それぞれ1つずつ）

4/3~4/6調査（第2回調査）

n=4700 単位：％



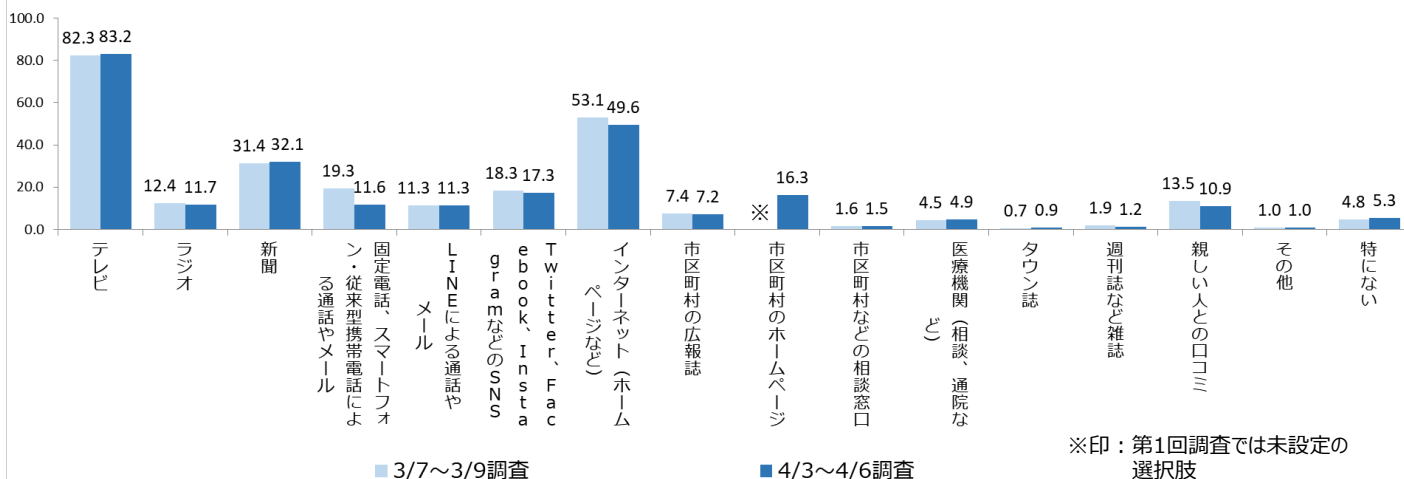
役立った情報源

Q 今回の、新型コロナウイルス感染症関連で役立った情報源は何ですか（あてはまるものすべて）

3/7~3/9調査（第1回調査）

4/3~4/6調査（第2回調査）

共にn=4700 単位：％



※印：第1回調査では未設定の選択肢

■情報について（２）

- 全体の8割以上が『役立った情報源』だと回答している「テレビ」の情報提供について、6項目の質問をしたところ「不安を煽るような映像や表現が多かった」で肯定層（そう思う＋ややそう思う）が53.1%「どのように予防対策や行動をすれば良いか、わかりやすかった」が同52.4%と半数を超えている。
- 第1回調査に比べ、「どのように予防対策や行動をすれば良いか、わかりやすかった」「医学や保健・衛生の難しい点を、わかりやすく伝えられていた」「事実を適切に伝えている放送が多かった」の肯定層がそれぞれ10ポイント以上増加している

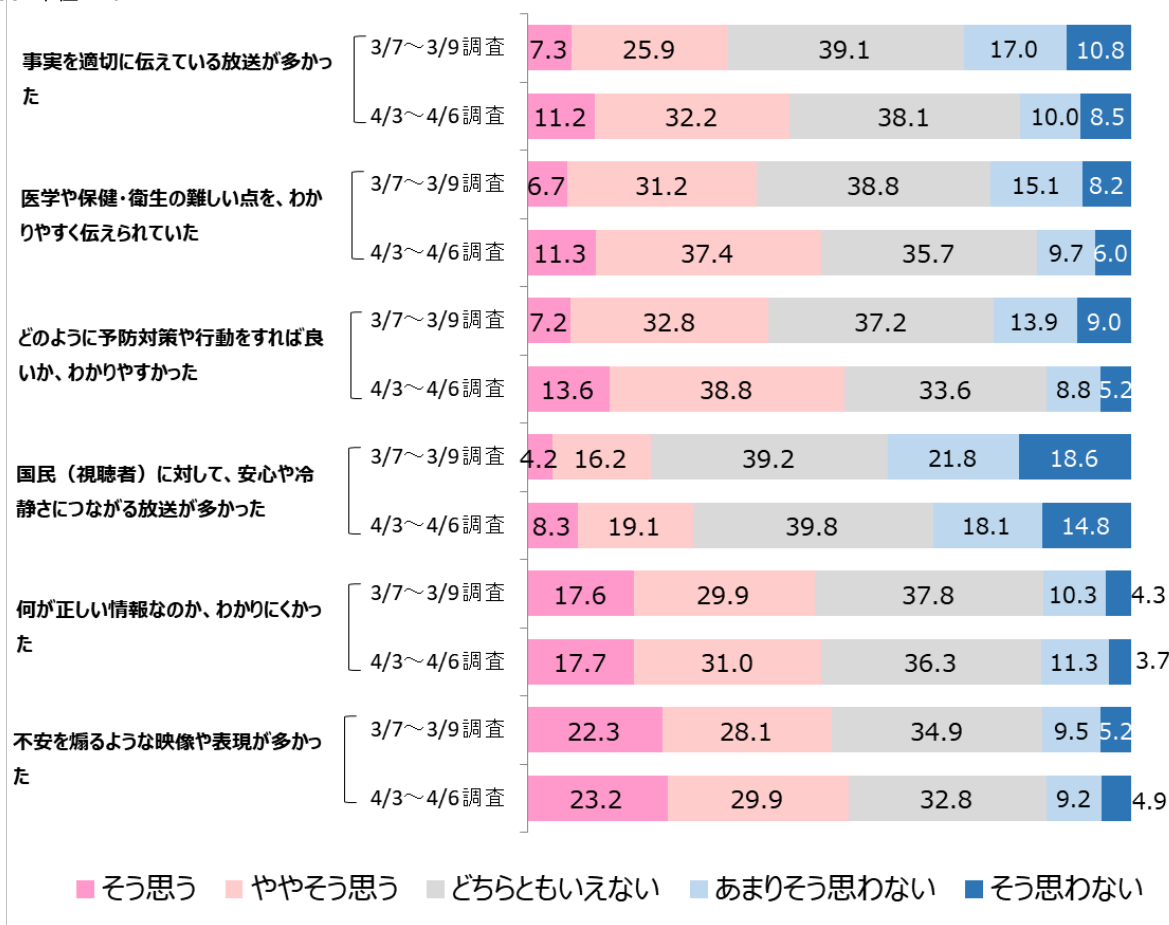
テレビにおける情報提供について

Q テレビの報道（情報番組を含む）における、新型コロナウイルス感染症関連の情報提供について、お聞きます。以下についてお答えください（それぞれ1つずつ）

3/7～3/9調査（第1回調査）

4/3～4/6調査（第2回調査）

共にn=4700 単位：％



■情報について（3）

- 各情報源の平均利用時間については、第1回調査と大きな差異はない

情報源の平均利用時間

Q 以下のメディアについて、この1週間程度、1日平均どのくらい利用しましたか。（それぞれ1つずつ）※「ラジオ」はradikoも含みます

単位：％

		調査数 (N)	8時間以上	5時間以上 8時間未満	4時間以上 5時間未満	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	1時間未満 30分以上 2時間未満	1時間未満 1時間30分未満	30分以上 1時間未満	30分未満	まったく 利用しなかつ
テレビ	3/7～3/9調査	4700	13.5	11.1	10.1	12.2	16.1	9.0	8.4	6.9	6.1	6.6
	4/3～4/6調査	4700	13.9	8.9	10.9	13.1	16.1	9.0	8.5	7.3	6.9	5.4
ラジオ	3/7～3/9調査	4700	1.6	1.3	1.0	1.5	3.1	2.6	3.6	5.9	16.3	63.1
	4/3～4/6調査	4700	2.0	1.2	1.1	1.4	2.6	2.8	3.2	5.1	12.8	67.8
新聞	3/7～3/9調査	4700	0.4	0.4	0.6	0.9	1.7	2.0	5.0	12.6	26.4	49.9
	4/3～4/6調査	4700	1.1	0.6	0.7	0.9	1.6	3.4	4.5	12.0	23.9	51.2
雑誌	3/7～3/9調査	4700	0.4	0.2	0.2	0.5	1.2	1.1	2.4	6.1	18.5	69.5
	4/3～4/6調査	4700	0.7	0.2	0.4	0.4	1.0	1.1	1.3	3.1	9.1	82.7
パソコンでのインターネット	3/7～3/9調査	4700	6.5	4.2	4.8	6.1	10.7	8.0	9.9	11.1	11.2	27.6
	4/3～4/6調査	4700	6.7	3.3	4.0	5.3	8.9	7.4	8.8	11.2	11.4	32.9
スマートフォン・従来型携帯電話でのインターネット	3/7～3/9調査	4700	7.1	4.6	4.9	6.8	10.7	10.5	11.4	12.2	16.3	15.4
	4/3～4/6調査	4700	6.8	3.9	4.8	6.8	9.2	8.3	10.6	13.1	15.3	21.1

■働き方について（１）

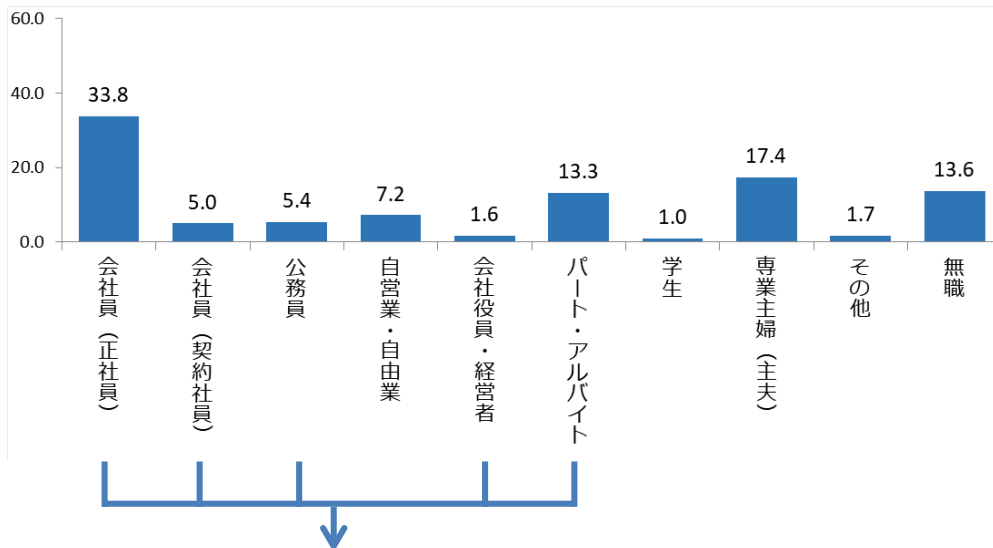
- テレワーク（在宅ワーク）及び、時差通勤の状況を調査した
- 実施率（利用している＋職場で利用している人もいるが、自分自身は利用していない）は【テレワーク】が28.2%、【時差通勤】が33.0%だった。このうち回答者の利用率は【テレワーク】が14.4%、【時差通勤】が16.4%であった
- 【テレワーク】利用者に、良好か否かをたずねたところ「まあ良好である」（36.4%）と「良好である」（33.4%）が多く、合わせて約7割が良好と回答している
- 良い点では「外出による感染の心配を避けることができる」（81.7%）「混雑する電車やバスに乗らなくてよい」（77.0%）が上位となっている
- 課題としては、「仕事がしやすい状態ではない」（60.6%）「会話や交流が減る」（59.6%）「全ての仕事が生家で済ませられるわけではない」（58.4%）などが上位となっている

職業

Q あなたの現在のお仕事をお答えください（兼業等がある場合は、主なものを1つ）

4/3～4/6調査（第2回調査）

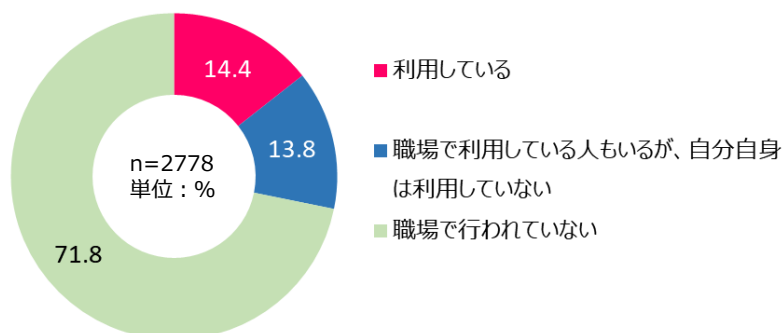
n=4700 単位：%



Q あなたの職場では、今回の新型コロナウイルス感染症への対応として、テレワーク（在宅ワーク）、時差出勤を実施していますか（回答は1つだけ）

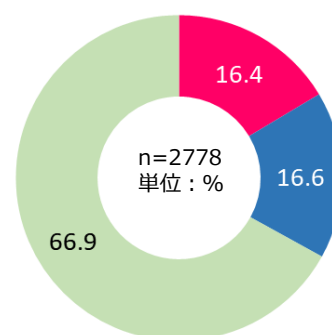
テレワーク（在宅ワーク）

4/3～4/6調査（第2回調査）



時差出勤

4/3～4/6調査（第2回調査）

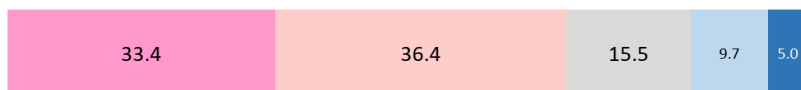


■働き方について（２）

テレワークへの評価

Q テレワーク（在宅ワーク）による仕事の仕方をどう感じますか（回答は1つだけ）

4/3~4/6調査（第2回調査）
n=400 単位：％

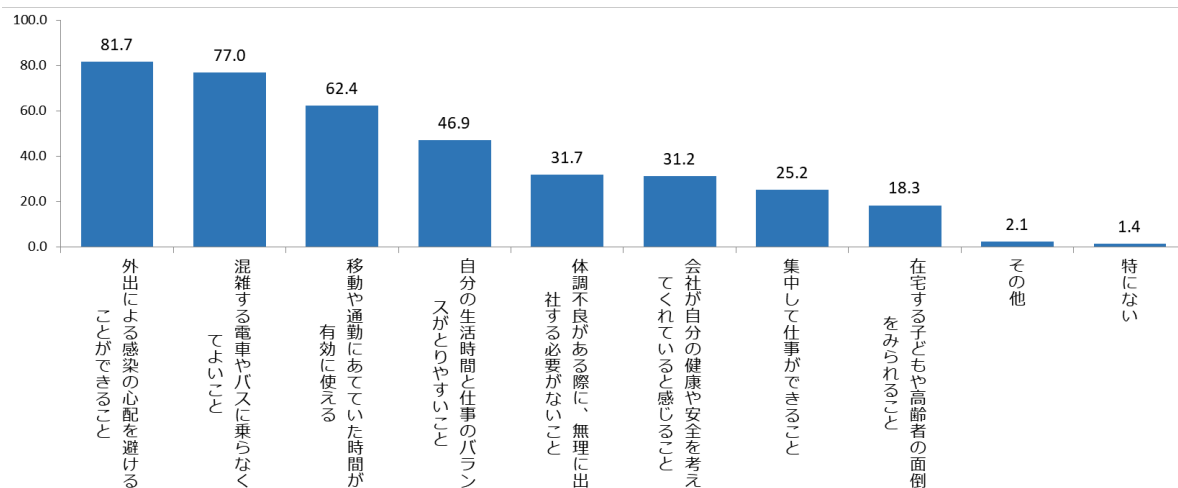


■ 良好である ■ まあ良好である ■ どちらともいえない ■ あまり良好ではない ■ 良好ではない

テレワークの良いところ

Q テレワーク（在宅ワーク）による仕事で、良いと感じることはどのようなことですか（あてはまるものすべて）

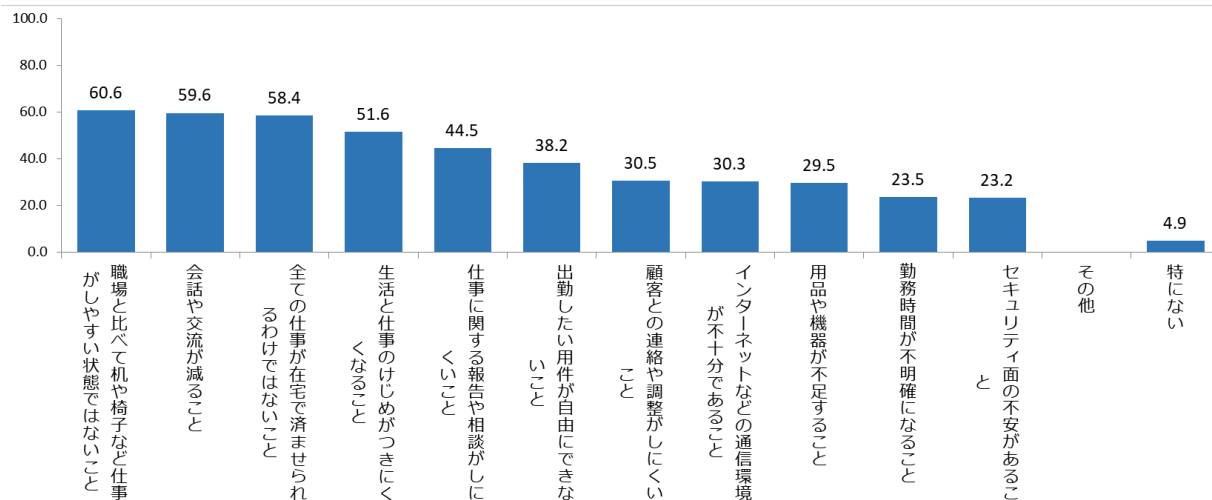
4/3~4/6調査（第2回調査）
n=279 単位：％



テレワークの不都合・課題

Q テレワーク（在宅ワーク）による仕事で、不都合や課題を感じることはどのようなことですか（あてはまるものすべて）

4/3~4/6調査（第2回調査）
n=59 単位：％



■政府の対応について

- ここまでの政府の対応については、第1回調査と同一の項目については、「水際対策」「情報提供」「検査体制」で肯定層（良い+まあ良い）がやや増えており、「イベントなどの自粛要請」では肯定層がやや減少し、否定層（悪い+やや悪い）が約9ポイント上昇している
- 新たな項目では、「オリンピック延期決定」が肯定層53.8%と最も高く、「学校再開への対応」（同28.7%）「医療体制」同28.3%「感染拡大防止策」同26.2%となっている

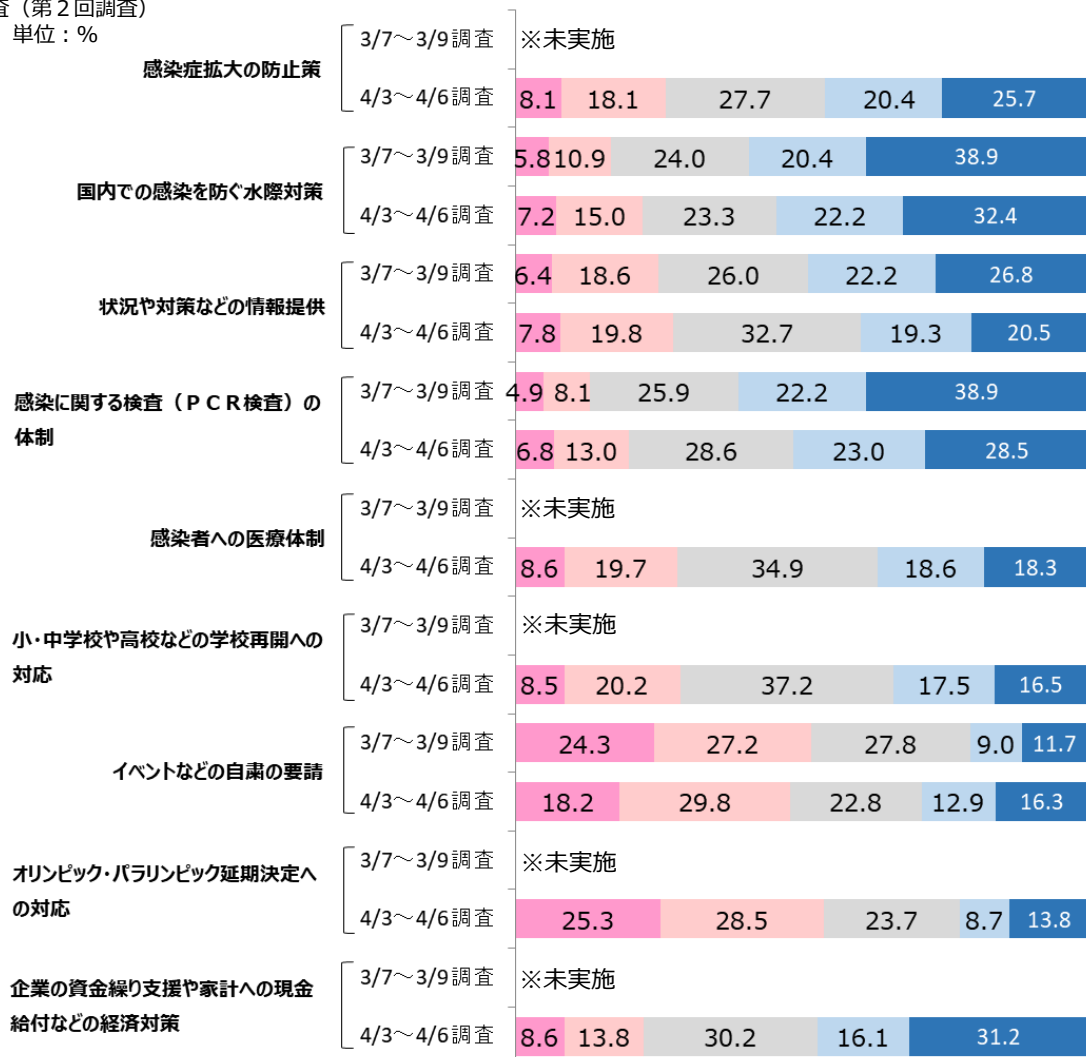
政府の対応への評価

Q 新型コロナウイルス感染症に関する、ここまでの政府の対応について、あなたはどのように感じになりますか。以下についてお答えください。（それぞれ1つずつ）

3/7～3/9調査（第1回調査）

4/3～4/6調査（第2回調査）

共にn=4700 単位：%



■ 良いと思う ■ まあ良いと思う ■ どちらともいえない ■ やや悪いと思う ■ 悪いと思う

■サーベイリサーチセンター 会社概要

- 会社名 : 株式会社サーベイリサーチセンター
- 所在地 : 東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
- 設立 : 1975（昭和50）年2月
- 資本金 : 6,000万円
- 年商 : 70億円（2018（平成30）年度）
- 代表者 : 代表取締役 藤澤 士朗、長尾 健、石川 俊之
- 社員数 : 社員268名、契約スタッフ456名 合計724名（2020年3月1日現在）
- 事業所 : 東京（本社）、札幌、盛岡、仙台、静岡、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡、熊本、那覇
- 主要事業 : 世論調査・行政計画策定支援、都市・交通計画調査、マーケティング・リサーチ
- 所属団体 : 公益財団法人 日本世論調査協会
一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会（JMRA）
日本災害情報学会
一般社団法人 交通工学研究会 他
- その他 : ISO9001認証取得（2000年6月）
プライバシーマーク付与認定（2000年12月）
ISO20252認証取得（2010年10月）
ISO27001認証取得（2015年11月）※

※認証区分及び認証範囲：

- ・MR部及びGMR部が実施するインターネットリサーチサービスの企画及び提供
- ・全国ネットワーク部及び沖縄事務所が実施する世論・市場調査サービスの企画及び提供

■本件に関するお問合せ先

株式会社サーベイリサーチセンター <https://www.surece.co.jp/>

- 広報担当：松下 正人 E-mail : src_support@surece.co.jp
品質部
TEL : 03-3802-6779 FAX : 03-3802-6729
- 調査担当：石川 俊之 E-mail : ishi_t@surece.co.jp
岩崎 雅宏 E-mail : iwa_m@surece.co.jp
営業企画本部
TEL : 03-3802-6727 FAX : 03-3802-7321
- 調査結果の引用にあたっては、事前に当社にご連絡頂いた上で、調査主体（当社名）を必ず明記して利用してください
- 調査結果の無断転載・複製を禁じます
- 本紙に記載している情報は、発表日時点のものです